

# 心理臨床の 広場

特集

- ① 推し活 それぞれの心理
- ② 「無敵の人」を生み出さな  
ないために

対談

古家正亨×日野 映

WORLD MAP

ロジャー・フリー先生

30

Vol.16 No.1 Apr. 2023



日野 映



古家正亨

**日野** 今日日本にK-POPを普及させた立役者であり、多くのK-POPスターとお仕事をされている古家さんとの対談ということでもっとも緊張しています(苦笑)。  
**古家** 普通のおじさんなので気楽にお願いします(笑)。

**心理学から学んだこと**

**日野** 韓国と日本は未だに様々な歴史的課題がありますが、その中でも今回は友好的な交流が進んできたK-POPカルチャーのことなどを中心にお話を聞きたいと思っています。ただ、古家さんご自身の今までの活動やご経験についても伺いたいと思っています。まず大学時代は臨床心理学を専攻されていたんですね。  
**古家** もともと芸大か芸術学部のある大学に行きたかったんですが、高校生のときに親戚が痴呆で苦しんでいる姿を見たんですね。偶然そのときにNHKで音楽療法について紹介する番組をやっていた、音楽療法で痴呆が治るわけではないんだけど

も、改善する可能性があることを紹介していたんです。僕はラジオDJになることが夢だったんですが、同時に学生時代はバンドや今でいうDTM(デスクトップミュージック)もやっていたりして、そもそも音楽が好きだったので、将来は何か音楽に関わる仕事がしたいと漠然と思っていたんです。なのでそんな音楽を使って、少しでも世の中の役に立ちたいという気持ちがあったので、大学で音楽療法を学んでみようと思ったんです。ただ、当時は日本で本格的に音楽療法を学べる学校がほぼなく、これも偶然、地元北海道の北海道医療大学に臨床心理領域の音楽療法が学べる専攻ができる知り、迷いなく、そこに進もうと思ったんですね。そこで初めて、心理学とか臨床心理学について知ることになったわけです。ですから僕は、最初心理カウンセラーって、何か困った人にアドバイスをしてくれる人だと思っていたんですね。すると恩師は「カウンセラーの仕事はクライアント(相談者)の話聞いて、気づき

**巻頭対談**

Masayuki Furuya

**古家正亨 × 日野 映**

Hayuru Hino



しても活躍されてますが、その中でも「聞き上手」であることが活かされている感じはしますか？

を与えることであって『答え』を提示する人ではない」とおっしゃったわけです。その言葉がすごく衝撃的でした。今、僕はラジオDJの仕事をしてますが、「しゃべり上手なDJ」ってどんな人かというところ、巧くトークすることがしゃべり上手の基準ではなく、いかに「聞き上手」であるかということが大事だと、現場で教えられたんですね。ですから相手の言葉に耳を傾けることの大切さを、学生時代に学問の一環として学べたことが、今の仕事にとっても役立っていると思いますね。

**日野** 古家さんはイベントのMCと

**古家** 私がMCをするときに一番気をつけていることが、主人公であるスターと、その主人公に会いに来たファンとの間のパイプ役、橋渡し役に徹することです。そのときに大事にしていることは、スターとファン両方の声に耳を傾けて、いかに少ない言葉で言いたいことを引き出せるかということ。ファンの立場でもありながら、いかにスターに安心感を与えるかという、その間合いが本当に難しいんですね。単なるしゃべり上手だと、やっぱり間を持たせようとして、余計なことを喋りがちになります。でも、人には様々な間というのが存在して、その間合いに対して、MCは待つことが大切なんです。そこには表面的には「言葉」がなくとも、しっかりとそのスターならではの「言葉」があったりするんですよ。

### 韓国との出会い

**日野** なるほど、まさに非言語的な何かがあるわけですね。先ほどの「パイプ役」の話にも共通項を感じていて、僕たちもスクールカ

ウンセラーの仕事の中では、学校と家庭の間に入って両方と連携しながらどう繋いでいくかということに常に意識しています。古家さんの場合はそれが国と国の規模というか、さらに韓国と日本という歴史的にも政治的にも様々な課題が未だ山積みになっている中で仕事をされているわ



けですよね。

**古家** その本（『K-POP パワーステップス』イースト・プレス）にも書いたんですが、僕が韓国に触れた最初のきっかけはカナダへの留学にありました。僕はベビーブームの最終世代で、学校教育の中で近現代史を学んだ時間が特に短くて、大正以降の歴史は「自分で教科書を読んでおけ」で終わっているような感じでした。だからアジアの隣国の歴史や日本との関係性をほぼ何も知ら

ないまま学校を卒業してしまっていたんですね。さらに、メディアを介して知る日本は、アジアの中で特に日本が優れた先進国であるというイメージが強く、その感覚が無意識のうちに関心の中に植えつけられているような状態でした。

先にお話ししたように、音楽療法や英語を勉強するためにカナダに留学したんですが、そこで直面したのが、向こうでは日本人も韓国人も中国人も、アジア人という一括りだったということです。要するに欧米人からすると、アジアは一括りなんですね。ただ、僕も含めて現地の日本人は、「いや、自分は中国人とは違う」、「韓国人とは違う」と、直接口には出しませんでした。どこかでそう思っていました。そのときに改めて感じたのが、いかに無知って怖いかということだったんです。

その後、僕は韓国人コミュニティの中に入って、そこから韓国という国を知っていくわけですが、日本に対する考え方とか、韓国人の人たちが持っている感情は、自分の想像とはまったくかけ離れていました。反日的な人はほとんどおらず、それがショックであると同時に、二〇代にそういう現実を知る経験ができて、本

当に良かったと思いました。僕の場合は、その経験を通じて直感的に「これはヤバイ」と思ったんです。もしかすると運命なのかもしれないと思い、それでカナダ留学を途中でやめて、韓国に行きたいという衝動が生まれたんです。

それで韓国へ渡ったんですけれども、ちょうどその九〇年代後半というのは、韓国が政治的にも経済的にも文化的にも、大きな動きのあった時代でした。例えば、政治でいうと金大中政権が誕生した頃ですね。経済的にはIMF（国際通貨基金）の管理下に韓国が置かれたというところがあつた時代。文化的には、日本の大衆文化が段階的に解放された時期でした。

本当に偶然なんですけど、僕がたまにま行つた時期が、日韓関係において一番良い時期だったんです。だから、いろんなことに恵まれていて、いろんな経験をさせてもらって、韓国がそのときに感じていた痛みだったり、それからちょうど国家が破産に追い込まれてから這い上がるまでの過程なんかを、自分も一緒になって辿ることができました。そういうことが、やっぱり今の仕事に直接的ではないですけども、間接的にす

ごく影響を与えていると思うんです。この経験がなかったら、僕はもしかすると今の仕事をしていなかったかもしれません。

### 政治・歴史・文化

**古家** よく「韓国に行つたときに嫌な思いをしませんでしたか」「歴史的な問題とか政治的な問題で嫌なことはなかったですか」と聞かれるのですが、僕はそんなに嫌な思いは実はしていません。逆に気づかされたのは、日本人って政治とか歴史の問題が出てくるとあえて避けようとしませんよね。何か腫れ物に触るわ



けではないけれども、あまりしゃべりたがらない。変なことを言っちゃまい、相手を傷つけないとか。**日野** 確かに、炎上リスクがありますよね。

**古家** 僕も最初はそうだったんですけど、韓国の人たちは別にそのことに対して何かを言おうとしているのではなくて、「日本人はどう思っているのか?」「あなたは個人的にどう思っているのか?」を聞きたいだけなんです。それが、自分が思っていることと違う意見であろうと同じ意見であろうと関係ないわけです。ただ、それについて語りたいたけなんです。

僕は日本人が、というか日本が先進国として誇れない一番の問題点として、「向き合おうとしない」というところにあると思っています。韓国では、若者の間でも政治の話や歴史の話が、いわゆる飲み会のネタになるんですね。一般の人たちも積極的に議論するわけです。僕はそれを見て、「ああ、なんて豊かな国なんだろう」と思うわけです。そういう議論を自由に交わすことができ、そのせいで、ときには取っ組み合いの喧嘩が起きたりもしますが（苦笑）。そんな経験を経て、自分の歴

史観が正しいかどうかはさておき、自分は「こう思っている」ということは、ちゃんと声に出して言っていかなければならないと思つたんです。そうやって自分の価値観を持ちながらも、いろんな価値観を受け入れることが、やっぱり国際的なコミュニケーションを取る上で重要なんだと。

例えば、アジア人って外見も似ているし、文化・習慣も似ているから、ときどき相手もこちらのことがわかつていて当然だと錯覚してしまうんです。もし欧米人が相手だったら、そうはならないと思いますが、なぜかアジアの人たちに対しては、そういう思い込みのせいで、揉め事も多いんです。エンターテインメントの世界も同様で、「郷に入れば郷に従え」では済まない問題も出てきます。「日本ではこうだからこうして欲しい」ではなく、「そちらの国ではこういう価値観だと思いますが、ここは日本だからこうやったほうがより上手いですよ」という伝え方でなければ解決しないんです。こういうコミュニケーション術は、どんなにAIが発達しても人でなければ解決できないでしょうね。なので、留学生活を通して学ぶことは、本当に大きいと思います。

## 国と個人のアイデンティティ

**日野** 大学の授業で学生と接したりしている、今の日本の若い人たちはK-POPが好きで実際に聴いたり触れたりしていますが、一方で歴史的な部分は「それはまた別の話」と切り離してやるような気がしますね。「ちょっと難しいからよくわからない」という感じで。でもやっぱりカルチャーと歴史って切り離せない部分がたくさんあると思います。

韓国は直接選挙法だったり、IMF危機で男性中心な社会構造が崩れて女性の社会進出が高まるような社会変化があったり、大きなものでは兵役があったりして、そういう環境の中で生活しているとおそらく政治的な物事と直面する機会が多いですよ。日本の場合はわりと見ないでもするっと生活できるみたいなところが多くて、国や政治に対する感度やアンテナみたいなものが全然違うなど感じています。それはスターの人たちの振る舞いを見てもやっぱりそうで、最近であればBTSが国連に出たり、Red Velvetのアイリオンがフェミニズム小説をSNSにアップしたり、NCTのテンの曲がソ



ウル・クイア・パレードに使用されたり、シンガーソングライターであれば、イ・ランは社会への問題意識を歌にしたり、政治的・社会的な問題に対してアンテナを張って、積極的に発信や連携をしていくところがあります。それが日本に輸入される形で、今の若い人たちが政治に関心を持つたり、社会のことをもっと考えたりするようなポジティブな側面もひょっとしたらあるのかなと思うんですが？

**古家** もちろんポジティブな部分もありますが、一歩間違えると大変なことになる可能性もあると思います。つい数年前までは、韓国でも日本でもアイドルや芸能人は、政治や歴史

のことを話さないほうがいいという空気がずっとあったと感じています。それが少しずつ変わってきたのは、SNSの発達もその背景にあるでしょう。ただ、それが炎上することも少なくありません。その一方で、国民から支持を得ることもあります。例えば、以前韓国の人気グループSUPER JUNIORのメンバーが反日的な発言をして、それに対して日本の一部のファンがボイコットしたり不満の声を上げたことがありました。韓国の場合は、日本に侵略された被害者だという歴史がある中で、ある程度日本に対しては何か言っても許される空気があるわけです。むしろ、そういうことを言ったことによって、

韓国の国民から支持を得られたりするんですね。

ほかにも人気グループTWICEのメンバーで台湾出身のツイイさんが、韓国のテレビ番組で、本人は何も悪いことは言っていないんだけど、出演者の出身国の国旗を並べるシーンで、台湾の国旗をテレビ局側が用意したんですね。それに対して中国のファンが猛反発して、彼女は動画で「私は一つの中国を支持します」と謝罪させられるという出来事がありました。中国を大きな市場の一つとしているK-POP界が、中国に屈せざるを得なかった例ですが、そこにはやっぱり、国と国の力学が大きく関係していますし、そういう事件があったから周囲もより敏感になったわけです。

だから、僕はあるて政治のことについては、もうスター自らが何かを発信する必要はないと思うんですよ。ツイイさんが置かれた立場や彼女がどう感じたかを想像すると、すごく胸が苦しいんですね。なぜなら彼女は台湾に生まれ育って、その台湾という環境の中でいろんなことを学び、しかも台湾の人としてデビューしているわけじゃないですか。それが中国と台湾の政争に巻き込まれた状況

になったわけですから。

同じようにK.A.R.A.が、かつて日韓関係が悪化した際、韓国の記者からのセンシティブな質問に対して、決して日本のことをネガティブに言わなかったんです。それが日本側から大絶賛されたんですね。このことは彼女たちが日本のマーケティングをすごく大事に思っていることに加えて、政治とは関係なくエンターテインメントによって国を繋いでいくという意思の現れだったわけです。僕はそのとき、「K.A.R.A.は立派だな」と思いましたし、「事務所の判断はすごい」と思ったんですよ。当然、韓国国内からのバッシングがあるわけですから。

そこで今一番問題になってくるのが、これだけたくさん日本人が韓国に渡って各グループの中で日本人メンバーとして活躍しているじゃないですか。それはとても素晴らしいことですし、韓国も多様性を受け入れて、国籍に関係なくタレント性の高い人をどんどん取り入れていくという流れになっているわけです。そのこと自体はとても良いことなんです。が、もしかしたら日韓関係が悪化した際、意地悪な質問をする記者が日本人メンバーに対して、「今の日韓関

係についてあなたは どう思っていますか」と質問するタイミングがあると思うんですよ。今までもそのようなことは実際にありましたし。そのときに、果たして日本人メンバーは 何と云うだろうかと考えたときに、僕はただ韓国のことを良く言うことしかできないと思うんです。でも、本当にそれでいいのかというふうに思っています。韓国のグループの中で活動はしているけれども、その子は韓国人ではないし、あくまでナシヨナリティは日本で、アイデンティティも日本人じゃないですか。いろんなしがらみの中で言えないこともあるだろうけれども、少なくとも「自分」は持つてほしいんですよ。

そのためには学びが必要で、中途半端な学びではそれが持てないんです。僕の場合はたまたまカナダに行つて、それから韓国に行つて、そういうことを直接学ぶ機会に恵まれたからよかつたけれども、今の若い子たちはもう小学生や中学生の段階で韓国の学校に留学して、それで練習生になっているんです。おそらく感覚としては半分韓国人みたいな感じだと思つていますよ。僕としてはもっと幅広い視野を持つてほしいし、日本人としてのアイデンティティをしっかりと持つための最低限の学びというのには必要だと思つています。こうしたことは、これから国際社会で生き残つていくためには必要不可欠な要



素であつて、むしろ今、韓国に向かう日本人の子たちには、そうした意識はしっかり持つてほしいなと思つています。

**日野** 韓国に留学している人と話をして、「いや、歴史のことは全然わからないし、そんなに気にしたことがない」、「それでも普通に韓国の友達はいるし:」みたいに言われることがあります。でも、古家さんがおっしゃるように、歴史的なバックボーンをしっかりと学んで、それに対して自分の意見をちゃんと持つようになるのと体験の質が全然違つてきますよね。それから今のお話を伺つて、古家さんはやっぱり日本人のルーツみたいなところをすごく大事にされているんだなと感じました。韓国に対しての思いと同時に、日本人である自分をととても大切にされているんですね。

### 音楽の後ろにあるもの

**日野** そうしたルーツを知る入り口としては、例えば音楽に触れることつて大事な気がします。僕が韓国の音楽を聴いてすごくグツと来たのが、キム・ヒョン・シクやハン・ヨンエのような八〇年代や九〇年代の韓国

歌謡です。言葉は全然わからないですけれども、何かヴォーカルに深く訴えかけてくるものというか、心を揺さぶる独特の哀愁がありますよね。そこには日本による統治、支配や南北分断など故郷を巡る歴史的なトラウマが土壌にあるような気がします。そういう意味では、日本の若い人たちがK-POPに触れることにはいろんな可能性があるのかなと思いますね。

**古家** 日野先生がおっしゃる独特の哀愁については、やっぱり韓国って長きにわたる軍事政権の影響や、それ以前から歴史的に支配され続けてきた国の歩みが大きな影響を与えていると思うんです。そういう状況下では、まずエンターテインメントやメディアの規制があるわけです。反体制的なメッセージが間接的にも伝わるようなものは全部規制されたわけですよ。そういう悲しい歴史が、韓国の場合は日本の統治時代以前からずっとあるわけです。中国との関係も複雑です。そういう歴史を背負ってきた人たちの哀しみや哀愁が、たぶんにじみ出ているんだと思うんですよ。

だから僕は、韓国のバラードとか、八〇・九〇年代の歌謡といわれてい

る曲が、すごく好きなんです。今の楽曲は、洗練されていて確かにいい曲なんだけれども、残念ながら韓国の音楽が持っている独特な哀しみは感じられないですね。二〇〇〇年代の前半ぐらいまでは、そういう音楽とアイドルの音楽が共存していたんです。今のようにはヒットチャートをアイドルが独占することもなかったわけです。今の韓国の音楽業界はビジネスとしては拡大し、成功しているのかもしれないけれども、「韓国の音楽的なアイデンティティって何？」と聞かれたときに、今は「これです」と言えるような人や楽曲を探すのは難しいですね。そこはちょっと寂しいなあと思いますけどね。

### ファンの側の大きな変化

**日野** 実は、今回の号の特集テーマが「推し活」なんです。古家さんから見た今のファンの人たちの印象はどんな感じですか？

**古家** その「推し活」という言葉自体が出てきたのはわりと最近ですね。昔から似たような活動を続けてきた人はいると思うんですけど、韓国にも「オドク（오덕）」という

言葉があって、これは日本語の「オタク」から派生しているんですね。なので日韓両国でそのような活動をしている人がいるわけです。ただ韓国の場合、このような言葉が出てきたのは、ここ一〇年ぐらいかな。それには理由があって、こういう活動をするには、お金と時間がなければできないんですよ。

**日野** (笑) 確かにそうですね。

**古家** 韓国は経済的にすごく豊かになって、今だと初任給なら日本より韓国のほうが上になっているほどです。しかも、韓国と日本に共通しているのが晩婚化で、特に女性が金的にも自由に活動できる人が増えている。かつては推し活のようなアイドルを追いかける活動は、女子中高生がするものであって、大学生になると同時に卒業するのが当たり前のような空気があって、大人になった男女が、アイドルを追いかけている姿を皮肉るドラマも制作されたほど、韓国ではあり得なかった現象なんですね。

それが二〇一〇年以降、ちょうど韓国のアイドルが第二から第三世代以降する時期。第二世代というのがBIGBANGやKARA、少女時代といったスターを指し、第三世代

がBTSやTWICEといったグローバルスターの台頭を指します。この第二と第三の間に、ちょうどSNSやYouTubeが広まったんですね。その頃から、推し活のスタイルが、すごくパーソナルなものになったと思うんです。

これは、自分一人でも完結できるような時代になったということを指します。それまではマスメディア主導の社会があって、マスコミを介して入ってくる情報をもとに、推し活していたわけですが、SNSを通して、日本だけでなく韓国からもダイレクトに情報を手に入れたり、交換できる時代になり、直接会えなくともYouTubeや、スクラでもスターの映像やMV（ミュージックビデオ）などを観られるようになりました。そういう時代の変化があって、自分が好きになった人やモノに対して、集中的にエネルギーや時間を注ぐことができるようになったと思うんです。

**日野** その「自分で完結できる」ところは納得です。推し活をしている人に話を聞くと、推し活とは「自己中」でいられることだと言っています。自分とアイドルの世界線が交わらないし、ファン同士で一緒にコ

ンサートに行ったりコンサートのためにホテルの同じ部屋に泊まったりもするけれど、それはリアルな友達ではない。ファンという繋がりだけで、たとえ相性が合わずに関係が切れても実生活に何の影響もないから楽だと言います。逆に友達だと気を使って同じ宿には泊まれないと。推し活は世界線の違う、自分の生活圏外の他者としか関わらない「自己中」でいられる活動だと。確かに今の時代、「自己中」でいられる場所ってとても少ないですね。

**古家** メディアを取り巻く環境が変わってきたのと同時に、今の人たちは、人間関係の取り方みたいなもので、かなり変わってきていますよね。そういう社会の変化と人間関係の変化自体が、「推し活」みたいなものを加速度的に進めているのかなと思います。

僕が学生の頃は、一日二四時間ではなくて一二時間ぐらいしかなかったですよ。なぜなら、お店は早く閉まるし、インターネットもないですし。でも今の人たちは起きていようと思ったら、それを受け入れる施設はいつまでも開いていますし、Netflixでドラマを一話から最終話まで観ようと思ったら一晩で観られ

ますよね。だから、推し活ができるというのは、一日中、一つのことに没頭できるような時間的余裕があるからこそなんですね。推せるときに徹底的に推せるという、そこが昔のファンと今のファンの違いだと思います。

### 「心」について声を上げる

**古家** ただ、「推し活」に長い時間を注げるといことは、それだけ推せるコンテンツがあるからで、その分、主人公であるスターたちは本当に変だと思えますよ。だって、オフの様子まで撮影したり、もうほぼプライベートがないような毎日を過ごさなければならぬじゃないですか。だから、そういう彼・彼女らの日常の犠牲があつてこそ、我々が「推し活」ができるという点においては、ちょっと胸が苦しくなるところではありますよね。

**日野** 確かにスターの方たちが厳格なマネージメントとセルフコントロールのもと、多種多様なコンテンツをバーツと発信して、さらに体形や見た目を維持したり、戦略によって変化させたりしているわけですよね。もしかしたらファンや受け手のほう

も、ものすごく高いマネージメント力って素晴らしいモノなんだ！みたいなメッセージを受け取っていて、こちらの生活もさらに管理されていくというか、実際に次の新曲のティザーが出るのは何日の何時で…と常にチェックしていると、そういうふうにも両者ともがだんだん苦しくなっていく感じがします。

**古家** 実際に現場でいろんな動きを見ていると、アイドル側のケアについてはもつとしっかり考えないといけないと思えますね。毎日練習に追われて、食べて寝て、また練習して…の繰り返しです。それでも、

まだ売れている人はいいんですよ。おそらく一〇〇組のアイドルがいるとしたら、常時メディアに出ているのなんて二〇組ぐらいで、残りの八〇組は何をしているかわからない。アイドルも完全にエリート教育で、練習生になって徹底的に教え込まれて、それで運良くデビューできた子はいいいです。でも、デビューできて、その上位二〇組に入れるか入れないかで人生が変わってしまう。そこにすら入れなかつた「永遠の練習生」の子たちは、振り返ったら何も残っていないし、学校にもそれほど行けていない。そして、その子たちを救う社会システムがあるわけでもない。韓国のタレント育成は世界でも抜きん出ている、とても優れていると思えますけど、社会がこうした問題をどのように解決すべきかというヴィジョンが、まだ見えていない感じがします。この先、日本でも似たような問題が出てくるのではないかと、もしかしたらすでに始まっているように思います。

**日野** おそらく日本の場合はまだ、もう少し緩い形で社会の中に包み込まれていくことができると思うんですね。韓国の場合はやはり財閥が強く、貿易依存型の産業構造的に、





競争社会、学歴社会という側面がすごく強いから、教育課程から離れてしまうデメリットが大きいですよね。勝てなかったとき、負けたときのルートが厳しい。アイドルも同様、セカンドキャリアや勝てなかったときのケアがなさすぎる気がしますね。

**古家** やっぱり光と影は必ずあって、本当に輝かしい部分は素晴らしいし、やっぱり日本にないものを持っているし、「魅せる音楽」という新しい価値を創造した点で韓国はすごいと思います。ただ、このビジネスモデルがいつまでも続くという保障はないわけです。考えなければいけないのは、若者の人生を預かる立場の人たちが、どうやってその若い子たちの将来を考えていくのかということ、それがこれからの大きな課題ではないかなと思います。

**日野** 特にK-POPのアイドルたちはすごく完成度が高いというか、日本のアイドルだと少し未熟なところが支持されてファンみんなまで育てるみたいな側面があったりします。ジャニオタもJ時代を支えてポピュラーグループになると推し変するし、日本のアイドルというと幼さや無垢さや拙さが売りになる側面がありますが、韓国の場合は人格的にもパフ



オーマンズのにも高水準で完成されている感じがします。そうなることを求められる水準も高くなって、何か自分の弱い部分を外に出したり失敗することが、日本よりもさらに難しい感じがしますね。個人的には日本のアイドル像もちょっと色々と考えさせられますが…。

**古家** これは日野先生のほうがよくご存じだと思うのですが、心のケアを受けることへの抵抗が韓国や日本だけでなくアジアの国ならどこにもあると思うんですよ。悩みがあれば、まずは家族や友人や知り合いに相談をするという文化ですし、残念ながら他人にお金を払って相談することに慣れていませんし。韓国ってOEC D加盟国の中で一番自殺率が高いんですが、そのことがもう如実にカウンセリングが一般的でないこ

とを表していると思うんですね。つまり、心が病んでいる人たちが社会が支えてあげられていないわけです。僕は、そういう文化って簡単には変えられないと思うんです。でも、やっぱりBTSのような影響力を持ったインフルエンサーが「こういうことは良くないからこうしていこうよ」と声を上げることによって、一つの文化とか流れは生み出せると思うんです。ただ、彼らのような人たちが発信することによって、「お前が言うのか」みたいな声も同時に上がるわけで、そのあたりのバランスはすごく難しいんですが。それでも僕は、少なくとも彼ら自身の「心の叫び」を言葉にしたということに意味があると思っています。すぐには状況が改善しないとしても、例えば、心の問題やメンタルヘルスケアについて、少しでも多くの声が上がることが願っています。

**日野** 最後は我々の仕事に繋がるお話が出ましたが、古家さんはまさに聞き上手な方で、自分がカウンセラーであるのにお恥ずかしいです（苦笑）。今日は気持ち良くお話しをさ

せていただき、本当にありがとうございます。ありがとうございました。

**古家** いえいえ、こちらこそありがとうございます。

**古家正亨**（ふるや・まさゆき）

北海道出身。北海道医療大学看護福祉学部医療福祉学科臨床心理専攻卒。上智大学大学院文学研究科新聞学専攻博士前期課程修了。九八年韓国留学。帰国後K-POPの魅力や伝える活動をマスメディアを中心に展開。二〇〇九年には日本におけるK-POPの普及に貢献したとして、韓国政府より文化体育観光部長官褒章を受章。日本で開催される韓流・K-POPイベントのMCとしても知られるほか、NHK R1「古家正亨のPOP-A」（毎週土曜14:05）、「ニッポン放送」古家正亨 KTRACKS（毎週火曜日17:00）など数多くのラジオ、テレビ番組を担当。著書に『K-POPバックステージパス』（イースト・プレス）、『ALL ABOUT K-POP』（ソフトバンククリエイティブ）、「Disc Collection K-POP」（シンコーミュージック）、「韓国・ミュージック・ビデオ読本」（キネマ旬報社）など。

**日野映**（ひの・はるる）

臨床心理士、公認心理師。東北福祉大学総合福祉学研究科福祉心理学専攻卒。仙台市スクールカウンセラー、宮城学院女子大学非常勤講師、仙台白百合女子学院大学非常勤講師、社会福祉法人幸生会顧問心理士。その他、公認心理師受験資格スキマ問題に取り組む有志団体 SUKIMA GENERATIONS 代表。Eiji-Hino Art Works。心理臨床とクイア・スタディーズ、カルチュラルスタディーズを中心に在野研究を行う。



装画 わたべめくみ

巻頭対談 古家正亨×日野映 01

巻頭言 心理臨床学とはどのような学問でしょう 伊藤良子 10

### Special Feature Articles

特集1 推し活 それぞれの心理 責任編集：葛西真記子 11

推しのいる生活	笹倉尚子	12
同担拒否のココロ	近藤恵里	14
「リアコ」～うつつを抜かすことのススメ～	井ノ崎敦子	16
推しの足跡を辿る旅「聖地巡礼」	津山紀彦	18
推し変——「もう一人の自分」と出逢う豊かな営み	山根亜希	20

特集2 「無敵の人」を生み出さないために 責任編集：山崎孝明 25

それは個人の問題か、社会の問題か——ジェノサイド対策としての臨床に向けた試論	西井 開	26
現場（矯正施設）における考察	牧野高壮	28
加害者臨床の立場から見た「無敵の人」	信田さよ子	30
「無敵の人」と表現してしまうことのリスク	井出智博	32

当事者に役立つ心理教育「対象喪失の痛みに向き合う」 責任編集：山崎孝明 38

肉親との離別体験がもたらすもの	樋口亜瑞佐	39
恋愛関係の終焉の意味	池 志保	40
子供の自立と空の巣症候群	阿久津圭佑	41
期待する子供像からの解放	井川ひとみ	42
ペットと安心感の回復	亀口憲治	43
偽りの自分を卒業し、再びつくること	山口貴史	44
流産・死産でのわが子との別れ	管生聖子	45

### Serial Articles

こころのリフレッシュ 馬と私	永田悠芽	22
先生たちの卒業論文 深津千賀子先生	平井大祐	24
心理臨床学会から 日本心理臨床学会第42回大会について	青木紀久代	34
てんてん こころの広場に行く その13	細川貂々	36
WORLD MAP ロジャー・フリー先生	葛西真記子	46
心理臨床家の養成 名古屋大学	田附紘平	48
上智大学	吾妻 壮	50
初心者のためのブックガイド		
『はてしない物語』	岩倉 拓	52
『なんでも見つかる夜に、心だけが見つからない』	山崎孝明	53

臨床心理士資格審査の受験資格を取得することができる大学院	54
公認心理師養成機関の情報	55

## 巻頭言 心理臨床学とはどのような学問でしょう

京都大学名誉教授 伊藤良子

大学生や高校生等若い方達は、日本心理臨床学会の名称にある「心理臨床」とはどのような疑問をお持ちではないでしょうか。そもそも「臨床」にはどのような意味があるのでしょう。

「臨床」とは、紀元四、五世紀にキリスト教世界に広まった「死の直前に受ける臨床の洗礼」において用いられた言葉です。それは人間の死の不安を和らげる為の儀式でした。私達は、人間の生は死を前提として成り立っていることを忘れて生きておりますが、心理臨床の場に相談に来られる方、とりわけ大きな苦しみを抱えておられる方々は、生の真只中であって、「死」の不安と懸命に向き合っておられるように思えます。

このような「臨床」は、歴史的には、精神医学において発展し、精神症状の状態像や経過について、身体的な観点から重要な知見が明らかにされてきました。心理臨床においては、精神医学の知見を踏まえて、人間が抱える困難な状況に関する心理検査の諸技法の開発がなされることによって、様々な

心の状態について、身体に現れる場合・心理的な苦しみとなる場合・他者への暴力等の行動化が生じる場合等に対する援助の在り方が探究されてきました。こうして心理臨床は、精神医学とは異なる学問として位置づけられるようになりました。

両者の大きな違いは、精神医学では、医学的診断に基づき、主に薬物療法が用いられるのに対して、心理臨床においては、来談者との関係性こそが重視され、来談者の語る困難や課題等の共有が目指される点でしょう。この様な関係性を深める為の中軸にあるのが言葉ですが、言葉で表現できない心の深層もあります。そうした次元に関わる為に、夢分析・箱庭療法・行動療法・描画療法・動作法等々の技法も用いられます。また、子どもへの遊戯療法とともに親子それぞれに対して援助される親子並行面接も重要になります。

人間が抱える課題は、時代の変化とともに非常に多様なものになって来ております。それらの苦しみを抱えている人々とともにあるのが本学会であると申せましょう。

## 特集1

# 推し活 それぞれの心理

私には小学校の頃から好きなアイドルやタレントがいた。どうしてその人や物が好きなのかうまく説明できないけど好きだった。その対象のことをもっと知りたかったし、いつも一緒にいたかったし（写真で）、ファンレターも書きたかった。世界中でその対象以上に素敵な人や物はない。なぜみんなその素晴らしさに気づかないんだろうと思っていた。それなのに…それなのに…ある日突然、それ以上に素敵な対象に出会い、また恋に落ちるのであった。好きになればなるほど詳しくなり、その素晴らしさについて周りに布教したくなる。好きな音楽のときは同じ曲をリピートで聞きまくるので家族に嫌がられた。これはまったくの「オタク」気質である。そのまま大人になった私は今でも、すぐにはまり、すぐに好きになり、好きになるとまっしぐらである。しかし、大人になるとこのような「オタク」活動は少し自重するのがよいのではないか、成長していきたくないと思われたいのではないかと思いつり行うようになった。しかし、ここ数年、このような人や活動に「推し活」という名前が付けられ、正々堂々で行えるようになった。

コロナ禍になり、活動自粛制限が出され、「推し」に実際に会いに行くことが困難になったが、「推される側」から「私たちのことを好きでいてください」というメッセージである様々なコンテンツがオンラインで配信されるようになった。そして同じ「推し」仲間SNSでめぐり合うことができるようになった。マイナーな対象の「推し活」をしているときは、どこにいったら自分と同じ思いの人に出会えるだろう!?と思っていたが、SNS上にはなんとたくさんいることか。

臨床活動において「推し」の話題にはよく遭遇するし、「推し」に会うために外に出るようになったり、バイトを始めたり、コミュニティに参加するようになった人もいる。そこで新たな対人関係に挑戦してみたり、自己主張してみたりと、様々な経験を「推し」のためにするのである。今回の特集は「推し活」について様々な視点から執筆してもらいました。

# 推しのいる生活

## いつの間に：推し活ブーム到来

今日もテレビからラジオから雑誌からいろんなステージから元気な姿を見せてくれ  
それだけで心満たされる

これは「キュウソネコカミ」というロックバンドが二〇一八年に発表した『推しのいる生活』（作詞・ヤマサキセイヤ／作曲・キュウソネコ

十文字学園女子大学

笹倉尚子

カミ）という曲の歌詞です。この曲のリリースから五年が経った二〇二三年現在、「推し」や「推し活」という言葉は私たちにとって非常に身近なものになっています。

NHKの朝の情報番組では二〇二〇年以来、「#教えて推しライフ」という「推し活」に関する企画が定期的に放送されています。二〇二一年には「推し」が新語・流行語大賞にノミネートされました。とある報道によれば、二〇二二年の段階で

「推し」のいる小中学生は九四％にのぼるそうです。いつの間に「推し」や「推し活」はここまで私たちの生活に入り込んでいたのでしょうか。そもそも「推し」や「推し活」とはいったい何なのでしょう。

まず「推し」とは、「他の人にすすめること。また俗に、人にすすめたいほど気に入ってる人や物」とされます（デジタル大辞泉、二〇二〇）。要するに、「推し」とは「応援している対象」のことであり、「推し活」とは「誰か（何か）を応援する活動」を指します。

「推し」という言葉の起源には諸説ありますが、八〇年代からアイドルファンにあいだでは存在しており、九〇年代にはインターネット上の匿名掲示板で「モーニング娘。」のファンを中心に使われていたようです（廣瀬、二〇二〇）。その後、より多人数のアイドル「AKB48」が登場し、握手会や総選挙といった独自の文化を築き上げていきます。その過程で『チームB推し』（二〇一〇）という曲を発表するなど、彼女たちも自分たちが「推されている」と認

識していることが明らかになってきました。このように、「推し」という言葉を使うときには、推す側と推される側に「関係性」が発生しているのが特徴と言えるでしょう。「推す」という行為においては、単に「好き」という状態を超えて、「応援する」という自分の主体的な営みと相手との「関係性」が核になっているのです。

とはいえ、以前からジャニーズファンの「担当」や宝塚歌劇のファンの「ご最頂」など、誰かを特別に好きになったり、その誰かが成長していくことを共に喜び、応援することを表す言葉は存在していました。それにも関わらず、なぜ「推し」という言葉、そして「推し活」はかつてなく広く、急速に普及しているのでしょうか。

## 我推す、故に我あり

ひとつには、「推し」という言葉がポジティブかつカジュアルに使われるようになったことがあげられるでしょう。以前であれば、「推しし



か勝たん」と言いながら同じCDを大量に買ったたりする人、同じ現場（ライブや舞台、握手会など）に繰り返し通ったりする人は、一般の方々から「すごいね」と若干引き気味の目で見られていたように思います。

しかしながら少し前から、そうした（ある意味で常軌を逸した）行動を積極的に肯定する動きが生まれました。推し活のもたらす幸福感に焦点が当てられるようになったのです。推しを応援することによって生じる「心満たされる」体験は言わずもがな、それを他のファンと共有できる「共感」の体験は、推し活の特にポジティブな側面でしょう（同担拒否の場合は除きます）。さらに推し活で推しとの「関係性」が発生するに伴い、自分を省みるということも起ります。「推しに恥じない自分でありたい」と自分磨きに精を出す人もいれば、「こんな自分でも推しに良い影響を与えることができるのかも」と自分の存在意義を再発見する人もいます。どれだけ自分の存在を疑ったとしても、推しを推してい

る自分だけは確かに存在する：「我推す、故に我あり」、不安定で流動的な世の中で、そのような人が増えているのかもしれない。

このようにして推し活は楽しい生き方・ポジティブなライフスタイルとして大衆に広まりつつあるのだと考えられます。ちなみにSNS全盛の現代では、「〇〇って最高」「応援してます！」など推しへの賞賛の投稿をするだけでも推しを応援すること、すなわち推し活が可能で、このような指先ひとつでもできるカ



ジュアルさが、お金を自由に使える若い世代や、イベントに参加するのが難しい地方の人々にも支持され、「推し」や「推し活」といった言葉の裾野が広がりに続けているのではないのでしょうか。

「そう言われても、芸能人にもアニメにも興味ないし、自分には関係ないかな：」。そう思う人もいるかもしれません。しかしながら多くの場合、推しというのは作るものではなく、気づいたら「推している」ものなのです。そして研究者やカウンセラーであっても誰かの推しになります。実際、私の推しは古代ギリシャ研究家の藤村シン先生です。先生の講座があれば聴講し、感想の手紙を書き、本が出れば買い、先生がお好きだというお茶をお贈りし：といったように、推し活の対象は別に芸能人や有名なキャラに限らないのです。

### その「推し活」大丈夫？

先日SNSで興味深い画像が回ってきました。「その『推し活』大丈夫？」というメンズ地下アイドル（メジャーデビューしていない男性アイドル）に関する注意喚起のチラシでした。てっきり誰かがネタで作ったものかと思いきや、警視庁少年育成課が作成したもので、推し活が公権力の目に留まるようになることは驚くとも感慨深くなりました。

推し活は辛い現実を生きる活力を与えてくれるものです。しかしその幸福感の強烈さゆえに、供給が途絶えたときに飢餓感が生じ、経済的に無理をしてしまったり、心のバランスを崩すことも起こります。推しとは一周回って、人生には不要不急の、どうでもいいものです。どうでもいいものだからこそ、夢中になることに意味があります。ですので、疲れたら推し活を休んでも良いのです。そのことを忘れず、心健やかに推し活を続けたいものです。

#### ●参考文献

- 廣瀬涼（二〇二〇）若者に関するエトセトラ（二）若者言葉について考える②―推しか勝たん― ニッセイ基礎研レポート 2020-07-10

# 同担拒否のココロ

岐阜県スクールカウンセラー

近藤恵里

## 「同じ」を拒む？

スクールカウンセラーをしていると、日々多くの子ども達と話します。彼、彼女らは本当にいろいろな事を知っていて、おばさんスクールカウンセラーの私にたくさんのお話を教えてくれます。「えー、そんなことも知らないの？」と言われそうですが、決してそうでもなく、「なになに？」と聞くと少しうれしそうに、

そして丁寧に教えてくれます。そんな話題の中、五年ほど前に出会ったAさんが教えてくれた文化があります。それが「同担拒否<sup>どうたんきよひ</sup>」です。不登校になりかけた彼女が教室での人間関係に悩んだ原因の中に、今まで仲良かったBさんと「同担拒否だから仲良くなれない」と訴えたのです。「同じ担当（推し）を拒否する」という意味です。著者世代で言うと、「マッチ派、トシちゃん派、よっちゃん派」で分かれていて、同じアイ

ドルが好きだと「昨日のベストテン、みたみた？」と話が盛り上がったのですが、今の子達は独特の文化の中で生きている傾向があります。その逆で「同担歓迎」文化もあるので、それは何十年に渡っても生き残っている文化なのでしょう。あれから数年経ちますが、年々「同担拒否」について語る子が増えている印象を受けます。

## 同じだと許せない部分が多い

何故？どうして拒否するのでしょうか。まず、「同担拒否」の心理を紐解いてみましょう。オタク用語で、起源は「ジャニオタ」から始まっていると言われています。SNSのプロフなどに記載する言葉として使われます。自分と似た人を嫌う「同族嫌悪」とはちょっと違います。「同担拒否」は「推し事」の中で自分をアピる文面に使います。同担を拒否する理由の一つが、「同担の中に、リアコ、がいるとひく」というものがあります。リアコとは「リアルに恋する」の意味ですが、同担

にリアルに恋している人とは関わりたくないというのです。逆に自分より同担への愛情が無さ過ぎても嫌だという子もいます。つまり、同担への愛情の度合い、熱量が違うと付き合いきれないので、最初から拒否するということです。さらには自分が、リアコ、だった場合、推し（好きな人）はかぶりたくないという通常の恋心と同じ気持ちで拒否をすることもあるようです。

また、彼女らは「推し事」として配信を視聴して再生数を稼いだり、それに対するコメントを書いたり、「推し」に少しでも自分の名前を印象づけようと努力します。CDを買ってお話し会などの様々なファンサ（ファンサービス）を受けます。その際に「同担」だと自分と他人のファンサの違いに嫉妬してしまうようです。そのため同担でない人との交流のほうもややもやしたり、いらしたりしないでいられるのです。さらに、「推し事」でイタバ（推しの缶バッジを一面に貼ったカバン）を作ったり、推しのグッズを集めたりするうえで「他担」との交流をし

ているほうが交換しやすいからという子もいます。みなお小遣いの範囲を超えてかなりの額をファングッズの購入にあてています。その上で「うちは貧乏だからお小遣いが少なくてもグッズが思うように買えない」、「あの子はお金持ちだからいいなあ」、「グッズ買うためにバイトをしている」、「違う推しのグッズがあつたときはメルカリで売る」などと言うのです。限られた金額の中で「推し事」をするために様々な工夫や努力をしています。たくさんグッズを買ってマウントをとりたい、また逆に同担にマウントをとられたくない心理も働くようです。

### 承認されたいの？

「マウントをとる」。これも彼女らには顕著な文化です。スクールカースト制が取り沙汰されて数年になります。マウントをとるからあの子が嫌、マウントをとられたから関わりたくないなどと言います。「マウントをとりたい」心理、これは心理学でいう「承認欲求」の現れです。

他者より優位な立場になり、「すごいねえ」と称賛されたい気持ちの現れでしょう。マズローという学者は欲求を五段階に分けました。ピラミッドのような構図になっており、下から一…生理的欲求、二…安全の欲求、三…社会的欲求、四…承認欲求、五…自己実現欲求です。承認欲求は自尊欲求とも言われ、他人から認められたい、尊敬されたいという欲求で下から四番目の欲求になります。

それまでの生理的欲求、安全の欲求、所属と愛情の欲求とともに「欠乏欲求」と言って、足りないで満たさうとする欲求です。承認が足りないそれを満たしたくなる欲求なのです。承認欲求にも「低位の承認欲求」と「高位の承認欲求」があります。「学校でマウントをとる」、「SNSで『いいね』されたい」欲求は「低位な承認欲求」にあたります。反対に「高位の承認欲求」は自己尊重や意識付け、自立性を得ることで満たされます。つまり、承認欲求は人からではなく自分で自分自身を認めてあげることで劣等感を抱かず、マウントをとるような行動をせずにいられるのです。

### 満たされよう

決して「同担拒否」が悪い文化だとは思いませんが、前出のAさんのように「拒否」だから仲良くなれなくなつて、教室の居心地が悪くなつて、お休みがちになつて…さらに教室に居場所がなくなつて…となつてしまふなら、ないほうがよいのかな？と思つてしまいます。ですが、きつと仲良くなつてからのトラブルなどを避けるため予告する文化なのでしょう。彼女たちは「地雷踏みたくないんだよね」と言います。著者世代だとそうしたトラブルなどを経験して大人になつたような気がしますが、合理的と言えば合理的です。

一見、友人関係が昔より変化してきているようにも思えますが、果たしてそうでしょうか？昔から似たようなことはあつたのでしょうか。確かにマウントをとる人も昔からいました。「明星」や「平凡」というアイドル雑誌を買つて、違うファンの子には切り抜きをあげることもでき

ました。「同じ」と「違う」を推し量つて人間関係を築いていく…思春期の仲間関係の構築の仕方は変わらなけれど、インターネット文化が普及して「リア友よりネット友」、「LINE外し」など昔にはなかった特有の人間関係の構築の仕方が現れ、その中で模索している若者文化なのかもしれません。今はSNSで簡単に人と出会える時代です。新しい出会いや発見もある一方で危険もたくさんあることを知っている彼女らだからこそ、工夫できる文化なのです。世代が違うとつい「理解できない」となりがちですが、大人は子ども達の言葉にも少し耳を傾けてあげてもよいかもしれません。



# 「リアコ」

「うつつを抜かすことのススめ」

徳島大学キャンパスライフ健康支援センター

井ノ崎敦子

「リアコ」と「追っかけ」や「推し」との違い

「リアコ」とは、「リアルに恋している」の略で、実際に会うことが極めて難しいアイドルや俳優といった有名人や、アニメやゲームなどの二次元キャラクターなどに本気で惚れ込み、実際に交際することや結婚することを強く望むことを意味するネット・スラング（電子掲示板やSNS上で使われる俗語）です。

「リアコ」に落ちると、対象となる有名人や二次元キャラクターと人目を忍んでカフェ・デートすることや空想してトキメキを感じたり、夕日が沈む海岸でのプロポーズのシチュエーションやせりふを空想して感動のあまり涙したり、結婚後の住まいとなるタワーマンションで朝日を浴びながら何気ない会話をする二人を思い描いて一人照れたり、どこまでも果てしなく広がるロマンティックな空想に酔いしれることができ

ます。

「リアコ」と一般的な「追っかけ」や「推し」との違いは、恋の本気度と対象に対する独占欲や他のファンへの嫉妬心の強さで区別されます。一般的な「追っかけ」や「推し」の場合は、対象となる有名人や二次元キャラクターへの憧れが基本で、実際に交際することや結婚することを求めておらず、他のファンへの嫉妬心や対象に対する独占欲はさほど強くありません。一方、「リアコ」の場合は、対象となる有名人や二次元キャラクターに本気で惚れ込んでおり、他のファンへの嫉妬心や対象に対する独占欲が強くなる傾向にあります。

そこまで惚れ込めるのはなぜか？

「リアコ」の対象となる有名人や二次元キャラクター、ここでは「リアコ」対象と呼びますが、この「リアコ」対象には直接会うことや交流することが基本的にできないため、「リアコ」に落ちた人は、メディアやSNSで発信される情報などの公

表されている情報からしか、その人となりを知ることができません。直接のやりとりによってなら実現可能である、実際の「リアコ」対象の人となりを実体的に捉えるということが不可能です。従って、「リアコ」対象に関して得られる情報はかなり限られていて断片的です。「リアコ」に落ちると、そんなほんの一部のことしかわからない「リアコ」対象に恋焦がれ、交際や結婚を本気で望めるのですが、それはどうしてでしょうか。そのなぞを解くカギが、精神分析理論の一つである「自己心理学」にあります。

自己心理学とは、アメリカの精神分析家ハインツ・コフットが確立した理論です。この自己心理学においてコフットは、自分自身を愛し、大切に思う気持ちである「自己愛」は生涯にわたって発達すると主張しています。コフットによれば、自己愛は、全知全能の自己像に基づいて自分自身を誇らしく思う状態から、欠点や弱点を含めたありのままの自分を大切に思う状態へと発達するとされています。ただし、自己愛がどれだ

け発達しても、自分自身が全知全能であるという空想や願望が完全に消えることはなく、理想という形の陰に残り続けるとコフートは考えています。目覚ましく活躍するスポーツ選手や芸能人などが多くの人からあがめられるのは、こうした全知全能の自己像が他者に映し出された状態であると考えます。

この自己心理学における自己愛の観点から考えると、「リアコ」は、全知全能の自己像に基づき自分自身を大切に思う気持ちだが、「リアコ」対象に映し出されている状態と言えます。断片的にしか知り得ない「リアコ」対象に、「リアコ」対象を求める志向や考え方や性格などを想像して「リアコ」対象の像を完成させ、その像のとりにこなるのです。そして、「リアコ」に落ちた人は、自分が作りあげた完璧な「リアコ」対象の像との結合、つまり、「リアコ」対象との交際や結婚によって、自分自身の自己愛を満たそうとしていると説明できるでしょう。

私たちは、約三年間の間、コロナ感染予防のためにマスク着用を新し

い生活様式として取り入れていきます。顔の半分がマスクで隠されたことにより、マスクを着けている人の、マスクの下に隠れている部分を見たことがない人は、その部分を自分なりに想像するしかありません。マスクの着用が義務づけられ始めた頃、「マスク美人」なる言葉が広がりま

した。「マスク美人」とは、マスクの下に隠されたところが、マスクをしているときには実際よりも美化されやすいことを示す言葉です。このように、人は何かと自分の中の理想像を人に映し出しやすい傾向があるのかもしれませんが。「リアコ」もそうした、自分の中の理想像を人に映し出しやすい傾向の延長上にあると考えられます。

### 生きる喜びとしての「リアコ」

冒頭で書いた、「リアコ」に落ちた人の空想例をお読みになり、全く理解できず、ついていけないと眉をひそめた方がおられると思います。

一方で、羨ましいと思ったり、まるで自分自身が恋しているかのように

楽しい気分になった人もいるかもしれません。

「リアコ」は正真正銘の本気の恋です。クラスメイトや部活の先輩・後輩など、身近で実際に会えたり、交流できる相手に恋焦がれる気持ちと何ら変わることはありません。

「恋にうつつを抜かす」という表現があります。これは、現実や我を忘れて恋する相手に夢中になることを意味する表現です。この「恋にうつつを抜かす」という表現は、『恋にうつつを抜かす暇があるんだったら、英単語の一つでも憶えたらどうですか』など、一般的には否定的な意味

で使われることが多い印象を受けます。「恋にうつつを抜かす」が否定的な意味で使われがちなのは、理性的であることを善とする現代において、理性を圧倒するような恋は価値の低いものとして捉えられがちなことと関係しているかもしれません。

しかし、「リアコ」であろうと、「リアコ」以外の恋であろうと、うつつを抜かすほど夢中になれるということは、今、この瞬間を精一杯に生きている状態であることを意味します。また、それほど夢中になれることをもつことは、人生に彩を与え、その人を生き生き輝かせる力をもっています。さらに言えば、うつつを抜かすほど心奪われて夢中になれることは恋の醍醐味でもあります。

人が何と言おうと、自分が好きだと思った「リアコ」対象を全身全霊かけて好きになり、恋にうつつを抜かすことは人間らしくて素敵なことだと思いませんか？



# 推しの足跡を辿る旅 「聖地巡礼」

## はじめに

ここは香川県小豆島。瀬戸内海に浮かぶ離島の総合病院で、私はカウンセラーの仕事をしています。ある日、島にある何の変哲もない書店の看板を熱心に撮影している観光客らしき青年を見かけました。観光地でもないこんなところをどうして？ 不思議に思い声をかけると、こう教えてくれました。

小豆島中央病院

津山紀彦

「『からかい上手の高木さん』というアニメの聖地を巡礼していて、ここがその一つなんですよ。え？ 観たことない？ 観ないと絶対損ですよ！」

## アニメ聖地巡礼

さて、本稿のテーマは「聖地巡礼」です。もともととは由緒ある神社仏閣や宗教地に参ることを指しましたが、最近ではアニメや映画の背景

として描かれた場所を訪れることなど幅広い意味で使われるようになり、二〇一六年の「新語・流行語大賞」にはトップ10にノミネートされました。

ここ小豆島も、『からかい上手の高木さん』という作品の聖地として多くのファンが訪れるようになりました。いま書店の本棚に「〇〇さん系」と呼ばれるジャンルの漫画・小説がたくさん並んでいます。このブームの火付け役となったのが、『からかい上手の高木さん』です。二〇一三年の連載開始から人気を博し、アニメ化を経て二〇二二年には劇場版が公開されるなど現在もヒットが続いています。主人公の女子中学生高木さんと、同級生西片の甘酸っぱい関係を描いたラブコメ系作品で、背中をくすぐられるようなこそばゆい二人のやり取りが作品の一番の魅力なのですが、随所に小豆島の風景がリアルに描かれています。（正確には、小豆島西側の土庄町）聖地巡礼は観光や地域振興と結びつき、「経済効果〇〇億円」といった大きな話題で取り上げられること

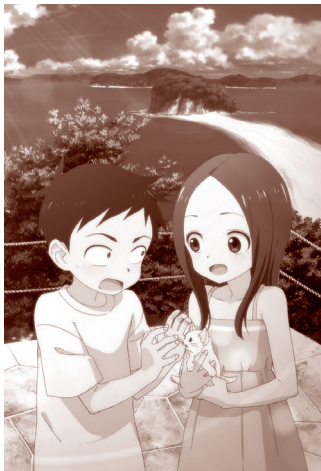
が多いですが、ここでは『からかい上手の高木さん』と、その舞台小豆島をひとつの例として挙げて、聖地巡礼とこの関係について考えていきます。

## どうして聖地巡礼するのか？

書店の撮影に没頭するあまりバスに乗り遅れた青年をホテルに送る道中の車内で、このアニメを観たことがなかった私に、アニメの素晴らしさを熱く語ってくれました。

「たまたま深夜にテレビをつけたら放送していたんです。主人公の高木さんが同級生の西片をからかう。毎回ただそれだけの内容なんですけど、なぜか目が離せなくて。どんどん観ていくうちにハマったんです。今では自分の推し殿堂入りです」。

作品を調べるうちに、背景のモチーフが小豆島ということ知り、ずつと行きたいと思っていたが新型コロナウイルスの流行によりなかなか行けず、今回念願叶って小豆島に参ったようでした。島の学校やバス停など島民からすると素通りするだけの



©2022 山本崇一朗・小学館／からかい上手の高木さん3製作委員会

場所が、ファンからすれば遠い旅路の果てに辿り着いた聖地として尊ばれていることを知り、私はとても驚きました。聖地巡礼は、まるで推しが生きている異世界に飛び込むような体験なのです。特に小豆島の場合には船に乗って海を渡ることになるので、より日常世界から離れた「異世界感」が増すのかもしれない。

二〇分程度車を走らせ、ホテルで青年と別れました。彼は「ありがとうございました。いろいろしんどい時期もあったんですけど、推しの高木さんに出会えて良かったです。せっかく聖地に住んでいるのだから、一度くらいは観てみてくださいね」と笑って去っていききました。

ここからは私の勝手な憶測なので

すが、聖地巡礼に参った高木さん推しの彼は、何かしら人生の難局があつて、こうして小豆島に辿り着いたのではないか。「いろいろしんどい時期」の内実は分からずじまいですが、彼が語る話のところで、そう思わせる雰囲気がありました。

人が生きていくうえで、時折人生の困難や苦しい局面を迎えることがあります。そうした節目の時期を、心理学は「危機(crisis)」と呼びます。これまで自分が立っていた足元がぐらりと揺らぎ、支えになるような対象が必要になる。そうした時に、私たちは心安らぐ「聖地」を強く求めるのかもしれない。ただその場所に行くことのみが聖地巡礼とは限りません。巡礼の途中でアクシデントが生じることもあり得るでしょう。冒頭の彼のようにバスに乗り遅れるかもしれないし、スマホの充電が切れて道に迷うかもしれない。思いもよらない場所に辿り着き、偶然の出会いが生じる。そうした想定外の出来事

を受け止めていくうちに、アニメの聖地として巡礼に来た場所が、いつしか「わたしにとっての聖地」になっていることを発見する。これこそ聖地巡礼の真の醍醐味と言えるかもしれません。

### 聖地巡礼と新型コロナウィルス

聖地巡礼も新型コロナウィルス感染拡大による断絶を経験しました。ファンは聖地に巡礼できなくなり、小豆島に旅行者の姿が消えました。行動制限が解除され少しずつ暮らしの賑わいが取り戻されていくなか、昨年(二〇二二年)小豆島で象徴的な行事が行われました。島内で数百年に祭りが開催されたのです。それも、『からかい上手の高木さん』の聖地である島の中学校が会場になり、アニメのテーマソングを歌う歌手のコンサートが開かれました。会場は人で溢れかえり、たいへん賑わいました。そして、この喜びを共にしようと、多くの巡礼者の姿を見かけました(高木さんグッズを身にまとったので一目見てファンだと分かる

ます)。あの日、祭りに繰り出した多くの人たちの笑顔と、煌々ときらめく出店のライト、そして音楽。紛れもなくあの場所は「聖地」と呼ぶに相応しい場所となりました。

### 「わたしにとっての聖地」

私が普段行っているカウンセリングでは、相談に来るクライエントの趣味や推しの話が出る場合があります。それらは一見するとクライエントの悩みとは関係ない話題のように思われるかもしれませんが、その作品の魅力を聴いたり、時には一緒に鑑賞して味わううちに、クライエントが抱えるテーマと深くリンクしていて、その人のことを支える重要な対象になっていると感じることがあります。

推しは、人生に彩りを与えてくれる。数あるコンテンツのなかから推しと出会い、推しの足跡を辿る巡礼の旅を通して、「わたしにとっての聖地」を見つけることができれば、それはとても素晴らしいことだと思います。

# 推し変

「もう一人の自分」と出逢う豊かな営み

国際医療福祉大学大学院 臨床心理学専攻

山根亜希

ここは都内某所の院生室。

院生室というのは、将来、心理職になることを目指す大学院生たちがカウンセリングの記録や論文を書いたり、「鬼の居ぬ間に洗濯」をしたりするスペースです。つまり、誤解を恐れず言えば、指導教授がいない時にホッと一息ついて、仲間と日頃のモヤモヤを吐き出せる数少ない居場所とでもいいたしうか。

その院生室の一角で、心理職の「卵」たちが何やら騒々しい。はて、どうしたものかと筆者が声のするほ

うを振り向くと、ある卵はスポーツ新聞を見て顔をしかめています。その隣の卵は、携帯を眺めて首をうなだれている。はて、どうしたものか。不思議に思っただけを尋ねたところ、「ぐぐう…。『オシヘン』するかな」と、「今日はもう、修論、やる気ない。帰ろっかな…」なる悲痛なセリフがちらほら。どうやら、推しの熱愛のニュースを目撃したようです。うら若き乙女たちの柔らかなこころを揺さぶる「オシヘン」の正体とはいかに。中年筆者の頭上には、た

くさんの疑問符が浮かび、そうして束の間、「オシヘン」への徒然なる連想が始まりました。

「オシヘン」あらため「推し変」とは、好意を抱いて「推して」いた対象が他の対象に移り変わることで、「推していたメンバーが変わる」を省略した若者言葉のようです。この冊子を読んで下さっているあなたも、ひよつとしたら学校や職場で耳にされたことがあるかもしれませんね。

「推し変」の対象は、ジャニーズやKポップなどのアイドルに留まらず、アニメのキャラクターや声優など幅広い層に及ぶといえます。また、そのきっかけも、推しの熱愛報道から不祥事、グループの脱退、はたまた、アニメの世界に至っては作画が変わることも影響するなど千差万別のこと。さらに、デビュー間もない推しに人気が出ること、「卒業」を決める人もいるとか。「卒業生」の心境としては、推しの誕生から巣立ちまで、一連の成長プロセスを見届けた達成感などもあるのでしょうか。なんと奥深く多彩な「推し変」ワールド！

さて、ちよつとこらで、一緒に心の森とやらを探ってみませんか？ え、怖い？ やめておく？ そう言いなさらずに。大丈夫です。森を探索するのはあなた一人ではありません。頼りないながら、筆者もここに居ます。そして、たくさんの読者もそばに居ます。安全な森なので、どうぞ安心ください。さあ、準備はよろしいでしょうか？

では、まず、冒頭の「卵」たちの嘆きには、どのような心の動きがあったと思われませんか。はい、ではその方。推し活を通して満たされていた繋がりが、突然途絶えたようなポツカリした空虚感？ なるほど、繋がりますか。推しとの繋がりは、あなたの中の心の痛みやネガティブな感情をそっとケアしてくれる存在でもあったのかもしれない。では、その隣の方。自分がエネルギーや愛情を注いでいた対象が遠いところに行ったような淋しさ？ ぐふむふむ。いわば、「推しロス」とでもいうような失恋にも似た感情でしょうか。それは切ない…。

多くの方が挙手してくれています

が、時間の関係で残念ながら、あと  
お一人。では、そのメガネの方。  
「こうであってほしい」という推し  
のイメージが崩れたガツカリ感？  
ほお。例えば、アニメのキャラクタ  
ーデザインが変わった場合などでし  
ようか。あなたが思い描いていた  
「理想やファンタジーとしての推し」  
と、「現実の推し」とにギャップが  
生まれたのかもしれないね。

### 「推し変」がもたらす 豊かな心の動き

ではここで、「推し変」を巡る心  
の動きに話を戻しましょう。

確かに、「推し変」は、ある意味  
で、大事にしていた何かを失うとい  
う「喪失体験」の一つとも言えます。  
ですから、今まで感じていた推しと  
の繋がりが連続性が突然途切れたよ  
うに思われ、戸惑いや痛み、また、  
怒りや後悔のような感情も湧いてく  
るかもしれません。場合によっては、  
一時的に無気力で不安な気持ちに襲  
われたり、推したい気持ちと推せな  
い気持ちの複雑に混ざり合って、葛  
藤が生まれることもあるでしょう。

でも、心配には及びません。そうし  
た心の動きは、人が衝撃を受けたと  
きに生じる、とても自然で正常な心  
の在りようだからです。

このことを考えるうえで、フロイ  
ドという精神分析家の考えが何かヒ  
ントになるかもしれません。彼によ  
れば、人間は「対象喪失」、つまり、  
自分にとって強い情緒的な結びつき  
や「愛着」を感じる存在を失うと、  
強い悲しみの感情を経験したのち、  
やがて、失った現実を受け入れてい  
くとされます。そして、彼は、そう  
した悲嘆の世界を消化していく心の  
プロセスを「喪の仕事」(モーニン  
グワーク)と名づけました。ですか  
ら、もし、あなたが、「推し変」に  
よって悲しみを抱えているならば、  
まずはその感情を少しずつ味わって  
みることをおススメします。  
ですが、ここで要注意。そうした  
タフな時には、一人で悲しみを抱え  
ない。身の周りの安心できる他者に  
話をただ聴いてもらう。ともに心を  
眺めてもらう。自分の心と向き合う  
ためには、そうした他者の存在が必  
要になります。そして、なんと

ことは、日常のルーティンをと  
りあえずやってみる。そうして日常  
の海を泳いでいるうちに、傷ついて  
いたはずの心はやがてゆつくりと回  
復のプロセスを辿っていくことでし  
よう。

### 「もう一人の自分」に気づき 手を繋ぐための営み

ではここで、少し離れたところか  
ら心の内側にアクセスしてみよう。

「推し変」は、あなたの心をどの  
ようにアップデートしてくれたでし  
ようか。数多くの対象のなかで、な  
ぜあなたはその推しに惹かれたので  
しょうか。新しく「推し変」した対  
象は、今までと同じようなタイプ？  
はたまた、以前の推しとは真逆なキ  
ャラでしょうか。また、推しとの関  
係性を通して、あなたの心はどのよ  
うに揺れ動き、豊かさをもたらして  
くれたのでしょうか。

こうして、いろいろな角度から心  
の動きを眺めてみると、向こうから  
意外な人の姿が現れてきます。それ  
は無意識に潜む、あなたも出逢った  
ことのない他者のようなもの。

そう、「もう一人の自分」です。  
そして、その「もう一人の自分」は、  
普段は自分でも意識しないような、  
思いがけない心のありようを映し出  
す役割を担っているのかもしれない  
ん。

こう考えてみると、「推し変」は、  
あなたが「もう一人の自分」の存在  
に気づき、そちらと手を繋ぐための  
プロセスでもあるのではないでしょ  
うか。そして、こうした心の変化を  
経験し味わうことは、あなた固有の  
物語を成熟させるうえで大切な営  
みにもなり得ると思うのです。

かく言う筆者の推しは大相撲です。  
あの緊迫した立ち合いの瞬間に垣間  
見られるオーラと勝負魂といったら  
い。いずれにせよ、場所中は相撲愛  
が止まりません。

今のところ、推し変は経験してい  
ませんが、推しメン力士が引退した  
時には、そっと喪失の涙をぬぐうの  
でしょうか。とはいえ、これから、  
ひよっとしたら、「もう一人の自分」  
と手を繋げる日が訪れるかも…と密  
かに楽しみでもあるのです。



# 馬と私

## はじめに

私は今、乗馬にハマっている。できることなら仕事に行かず毎日馬に乗りたくらいだがそんな訳にはいかなないので休みの度にいそいそと練習に向かっている。大好きだったお酒もほとんど飲まなくなり、朝四時起きで練習に行くこともある。乗馬クラブが山の中にあるため、夏は虻に刺され、冬は大雪で車がスタックしそうになるが、それでも負けじと通っている。馬に乗ることはとても楽しいが馬とコミュニケーションを

## 上町カウンセリングオフィス 永田悠芽

取ることはもつと楽しい。今日はここで馬と関わることの素晴らしさについて語ってみたい。

## 馬との出会い

乗馬には昔から興味があった。元々動物が好きで中学校の進路希望調査の「将来就きたい職業」の欄に「象使い」と書いて呼び出されたこともある。それから紆余曲折があり現在の仕事に就いたのだが動物が好きなのは変わらない。二〇二〇年の春先、新型コロナウイルスの感染拡



大で研修や会議が全て中止となり県外への移動も厳しく制限された。空白の予定表を見ながら私はこの時間をどうしようかと考えていた。この状況がいつまで続くのかわからないしこの先どうなるかもわからない、不安も強かったが今まで興味はあったけれど縁がなかったことをやってみようと思いついた。それが乗馬だった。

おっかなびつくり飛び込んでみた乗馬の世界は全てが初めてのことがかりだった。私は既に中年なのだが、こんなに何もわからず何もできないという状況に置かれたのは本当に久しぶりのことだった。まず馬にどう関わったらいいかわからないし、

世話も馬装も何もかもゼロからのスタートだった。中学生の部活動のように「ハイ！」とよい返事をしながら私は悪戦苦闘しつつ馬についての知識を身につけていった。数ヶ月が経った頃、指導者からパートナーを決めてはどうかと提案があった。

今まではその都度違う馬に乗って練習をしていたのだが、上達のためには決まった馬とコンビを組む方が良いというのだ。確かに馬によって歩幅やスピード、指示への反応の強弱が違うのでいつも慣れるまで苦労していた。馬が何を考えているのかもいまいちわからなかった。同じ馬とならもつと上手くやれるかもしれない。私はパートナーを決めるため人生初のお見合いをすることにした。

三頭の馬がお見合い相手として選ばれた。面食いの私は真つ黒な毛並みが美しい一頭に内心決めていた。彼はとても美しい馬だったが、私の指示を全く聞いてくれなかった。「下手くそのいうことなどきけぬ」

と彼はピクリとも動かず馬上で私は  
途方にくれた。すっかり忘れていた  
がお見合いは当然相手にも選ぶ権利  
があるのだった。もう一頭の馬は  
「ま、仕事ですから」という感じで  
無難に相手をしてくれた。悪くない  
かも。そして最後の栗毛の一頭に乘  
った時、馬から「こっちはか？ ん？  
下手くそだな、まあ仕方ないけど。

もうちょっと頑張れよな」と呆れな  
がらも私に協力してやろうという気  
持ちは伝わってきた。この時、私は  
初めて馬と交流しているという実感  
を持つことができたのだった。そし  
てこの栗毛の馬、イーデンとコンビ  
を組むことに決めた。

イーデンは引退競走馬だ。以前は  
私の年取など目じゃないようなお金  
を稼いでいたらしいが、ケガで引退  
し乗用馬になるべく訓練を受けた。  
彼はマイペースな親分肌の馬で、気  
の弱い馬のために馬込みの中に道を  
作ってやったりもする。放牧中、お  
気入りの馬女子と過ごしているイ  
ーデンに「練習に行こう」と声をか  
けるとため息をつきながらも一緒に  
来てくれる。基本的に真面目なのだ。

「ごめん、イーデン。デートは後に  
してね」と練習に向かう。馬に乗る  
ことはとても楽しい。楽しすぎて笑  
い出してしまうこともある。大人に  
なってからこんな夢中になれるも  
のと出会えるなんて幸運だと馬上で  
ニヤけながら私は考える。

### 馬耳東風

しかし素敵なことばかりではない。  
イーデンに完全に置き去りにされ  
たこともある。その日はイーデンと  
一緒に雪中外乗に参加していた。雪  
深い山の中を馬で散策し、八〇セン  
チは積もっているであろう雪原を走  
るのだ。天候に恵まれたその日は絶  
好の外乗日和だった。雪の中をラッ  
セルするのは馬もキツイ。  
スタミナのあるイーデン  
と私は先頭になることが  
多かった。「ええ、また  
俺が前なの」とイーデン  
はやや不満そうではあつ  
たが息を切らせながら森  
をぬけた。そこは一面の  
雪原だった。太陽の光が  
雪にキラキラと反射して



野うさぎの足跡だけが可愛らしい模  
様のようになっている。気持ち良い  
ここで優雅に走る姿を私は思い描い  
た。その時である。一頭の馬が突然  
駆け出したのだ。その馬を追いかけ  
てイーデンは一気に走り出した。  
「俺は負けん！」と言うイーデンの  
声が聞こえた気がした。深い雪の中  
を彼はどんどん加速した。停止の合  
図を送っても全く伝わらない。ヒュ  
ンヒュンと風を切る音だけが聞こえ  
寒風で頬の感覚がない。私にはもう  
彼の背中にしがみついていることし  
かできなかった。その時、イーデン  
が雪に足を取られ私は一回転して雪  
の中に放り出された。幸い深い雪に  
埋もれて全く怪我はなかったが、イ

ーデンは身震いして立ち上がると私  
を置いたままクラブの方に一目散に  
駆けて行ったのだった。「まって！  
イーデン！」と呼んでも振り返りも  
しない。結局山の麓で待っていたス  
タッフが彼を連れて戻ってくるまで、  
私は自分でラッセルしながら山を下  
ったのであった。辿り着いたクラブ  
の馬房で私は切々とイーデンに語り  
掛けた。「どうしてあそこに私を置  
いていくわけ？ 一瞬目が合ったの  
にさ、そのまま走って行ったでし  
よ」彼は知らんふりで草を食み続け、  
完全に私の言葉をスルーしている。  
その時私はハツとした。これはかの  
有名な馬耳東風というやつではない  
か。昔の人もこうやって切々と馬に  
語りかけたのかもしれない。見知ら  
ぬ誰かとの繋がりを感じ私は胸が熱  
くなったのであった。

### おわりに

乗馬の競技年齢は比較的高く、エ  
リザベス女王も九六歳まで馬に乗っ  
ていたという。流石にそこまで難  
しいが私もなるべく長く馬との関わ  
りを楽しんでいきたいと思っている。





心理臨床の先達の卒業論文はどんなテーマで書かれたのか？ そのテーマはその後

の後の臨床にどうつながっているのか？ 今回は精神分析理論に基づく心理的援助を、育児支援や母子関係の臨床で実践し、後輩育成に尽力してこられた深津千賀子先生にお話を伺いました。

ひとりっ子コンプレックス

深津先生が横浜国立大学心理学部で執筆された卒業論文は、一九六三年に『出生順位と性格』として教育心理学研究十一巻四号に掲載されています。学生の興味関心を尊重してくださる依田明先生のご指導のもと、先生は一人っ子であるご自身への関心と兄弟姉妹のいるご友人を見ていて長子らしい性格、次子には次子らしい性格があるのではという思いからテーマを決められました。幼い頃、兄妹がいる友達を見てみると羨まし

くなって、「きょうだい欲しい」と母におねだりしたら『残念!!無理かもね』と断られたエピソードも笑顔を交えお話しいただきました。

論文によると先生は小学四年生から中学二年生までの一四五組の子どもと母親を対象にした調査研究を実施されました。その結果、①出生順位により長子的性格、次子的性格とも言える性格特性があること、②兄弟姉妹の年齢差が二〜四歳の場合に長子より長子らしく、次子より次子らしい性格特性があること、③日常生活で次子が長子を「お兄ちゃん」「お姉ちゃん」などと普通名詞で呼ぶ場合より、それぞれの名前やあだ名、略称など、固有名詞で呼び合う場合の方が性格の差が優位に小さかったことの3点が明らかとなつています。先生が特に関心を持たれ、親子関係が子どもの性格特性に影響を与えていると考えたのは、③の家庭での親子、きょうだいの呼び合いが性格特徴を際立たせているか、でした。「家族内での呼称の仕方には親の価値観や教育方針が現れており、それによって出生順位による性格特性がより明確に現われ易いのではないか」という先生の仮説がある程度は支持されました。指導教官の依田先生から「教育心理学研究に投稿したら？」とお話があり、依田先生の協力を得てまとめたものが初めての学術誌へ

掲載となり、苦労が実って「とても嬉しかったのを覚えています」と、依田先生亡き今、とても懐かしんでおられました。調査対象は卒業した小学校の先生の紹介で神奈川県下の小中学校に協力を得たこと、当時は統計ソフトなどはなく、統計処理は計算尺を用いたことなど研究の課程でご苦労も伺えました。「現代は離婚、再婚、ひとり親の家庭なども増え、一九六〇年代とは家族の形態や価値観が変化していますし、統計処理も単純で稚拙な論文ですが、この論文が電子化され未だにウェブ上で公開されているということ自体、現代の皆さんにも関心があるテーマなのかも知れません」とも、関心のある方は論文そのものをぜひ読んでいただければと思います。

卒論執筆当時と今の子ども環境変化

卒論執筆当時の先生は小此木啓吾先生、馬場禮子先生のもと慶應義塾大学医学部精神神経科に滝口俊子先生と同期入局。精神科医と共に精神分析についての講義や研究会で精神力動的立場からの心理検査や精神療法理解が学べたそうです。先生はこのような学びをもとに精神分析理論に基づく心理検査や母子関係の心理臨床を長きに亘り実践されていますが、当時と今では子どもを取り巻く環境は大きく変わっていると感じておられました。

深津千賀子（ふかつ・ちかこ）一九六三年、横浜国立大学心理学部卒業。慶應義塾大学医学部精神神経科助手。その後、中央大学教授、大妻女子大学教授、医療福祉大学院特任教授。現在、大妻女子大学名誉教授。千駄ヶ谷心理センターにて私設心理相談、後輩育成。二〇一五年度日本心理臨床学会賞受賞。



深津千賀子（ふかつ・ちかこ）一九六三年、横浜国立大学心理学部卒業。慶應義塾大学医学部精神神経科助手。その後、中央大学教授、大妻女子大学教授、医療福祉大学院特任教授。現在、大妻女子大学名誉教授。千駄ヶ谷心理センターにて私設心理相談、後輩育成。二〇一五年度日本心理臨床学会賞受賞。

# 「無敵の人」を生み出さないために

「無敵の人」——「社会的に失うものが何もないために、犯罪を起こすことに何の躊躇もない人」を意味するインターネットスラングです。

ですからこの言葉は、何かしらの犯罪が起こった際に（トレンドに上がったりにして）取り上げられることが多いものです。

とはいえ、「社会的に失うものが何もない」と感じている人、実際に対人関係が乏しい人が増加しているのは事実であり、そうした非常事態でなくともこの問題は常に潜在しているといえます。

ここには、社会的孤立をつくる社会的構造の問題があります。そうした構造的問題は、要因が複雑に絡み合っていて、解決が容易ではありません。すくなくとも、個人個人の努力でどうにかなるものではありません。そういったサイズが大きい問題を、私たち心理職が直接的に解決することは難しいでしょう。

しかし、現実には、心理職はそうした問題の「結果」であるところの、「無敵の人」あるいはそれに近接した状態にある方と接しています。そうした心理職だからこそ、言えることがある——そう考え、この特集は組まれました。

心理職の強みは「細やかさ」にあります。どんな「無敵の人」にも、歴史があり、心がある。つながりを求めている部分があるし、後悔や傷つきも感じている。中身を読んでいただければ、そうした実情を垣間見ることができます。必ずや、「無敵の人」を彼岸のこととせず考えるための、きっかけとなるはず

ことば・思春期メンタルクリニック 山崎孝明



# それは個人の問題か、 社会の問題か

— ジェノサイド対策としての臨床に向けた試論

千葉大学社会科学研究院特別研究員

西井 開

## 小田急線刺傷事件とインセル

二〇二一年八月六日に小田急線で起きた刺傷事件をニュースで見たと、危惧していたことが起き始めたことと戦慄した。昨今英語圏の国々で問題視されている「インセル」による事件と酷似していたからだ。インセルとは「Involuntary celibate（不本意ながら独り身でいる者）」の略で、恋愛がうまくいかずに不遇感を抱いている男性たちを指す。彼らの利用する

掲示板にはミソジニー（女性蔑視）、反フェミニズム的な書き込みが溢れ、中にはジェノサイド（大量虐殺）を起こす者もいる。二〇一四年にカリフォルニア州の大学で起きた銃撃事件では、六名が亡くなり、十四名が負傷している。加害者の男性はインセルを名乗って女子寮を襲撃。事件直前に恋人ができないことへの欲求不満、女性への憎悪をYouTubeで発信していたという。小田急線で起きた事件の加害者である対馬悠介が警察の取り調べで語った「幸せそう

な女性を見ると殺してやりたいと思うようになった」「事件で重傷を負った女子学生が」勝ち組の典型にみえた」という供述が、インセルの発信と重なって聞こえた。

パワーを持つ男性が女性をコントロールするためになされる典型的なジェンダー暴力とインセルによる事件が大きく異なるのは、彼らが自らを社会で虐げられた存在であると規定している点だ。実際、非正規雇用の増加や賃金の低下、生涯未婚率の増加など、男性の境遇はここ数年で大きく変化し、過去できていたことができなくなったという相対的な剝奪感を抱く男性は増えている。未だ女性のほうが冷遇されている社会構造があるにもかかわらず、その剝奪の根拠を、つまり自身の境遇を変化させる力を女性たちが握っているという主観世界を持っている点に、インセルの特徴があると指摘されている。それは「勝ち組」として女性を想定し、恨みの対象とした対馬にも共通していると言えるだろう。

小田急線の事件の後、いくつかの報道機関から取材依頼が来た。これ

まで私が恋愛から疎外されたり、社会的に孤立したりする周縁化された男性たちの苦悩と加害性について研究してきたからだろう。私は頭を抱えた。この事件をどのように扱った方がいいのか迷ったからだ。

## ジェノサイドをめぐる二重の切断

多人数に対する殺傷事件は、たいていお決まりの型によって分析される傾向にある。加害者の心理的傾向や生い立ち、境遇、社会的属性を取り上げて、その点を先鋭化して原因分析を行うものである。オタクであること、非モテであること、ひきこもりであること、精神病理があること、周りを省みる必要のない「無敵の人」であることなど。加害者像を作り上げ、普通ではない特殊な社会集団の問題として囲い込んでしまう言説実践が積み上げられていく。

一断片しか切り取らないこうした早計な解釈に対して、大きく二つの批判の声が上がる。ひとつは加害者個人や一部の社会集団にのみ原因を帰することで、社会全体に蔓延する



問題を無化してしまうことに対する批判である。二〇一七年に起きた相模原障害者殺傷事件の際、加害者である植松聖が抱いていた優生思想は誰しもが持ちうる、という議論が盛んに行われた。「自分には関係ない」と加害者を切り離してしまつた瞬間、社会に遍在した差別性や加害可能性の問題を見過ごすことになってしま

う。もうひとつは加害者の属する社会集団に対してステイグマを付与することへの批判である。例えば、小学校のスクールバスを待っていた児童やその保護者たちが殺傷された川崎登戸通り魔事件(二〇一九年)では、加害者がひきこもり傾向にあったと報道された。ひきこもりに対する差別的な声が盛んに発信され、当事者団体や専門家から「ひきこもりは犯罪者予備軍ではない」という声明が出される事態に発展した。それはひきこもりという社会集団への偏見を増幅させないための措置だった。

しかしこの批判は第一の批判と矛盾をきたす。その社会集団は自らに向けられたステイグマを回避するた

めに、犯罪を実際に起こした個人を集団から切り離し、彼/彼女にのみ問題を集約するからである。ここには二段階の切断がある。社会から切断された社会集団はその内部で個人を切断する。その時、私たちは社会全体に潜む問題だけでなく、ひきこもりという現象の全体像さえも見逃してしまいかねない。なぜなら、特定の個人を切り離した社会集団は、ステイグマを避けるのと引き換えに、過剰に「善良」でなければならぬという足かせを強いられることになりからだ。ちよつとした加害行為について語ることはおろか、自身の持ちうる恨みや嫉妬の感情さえ、おくびにも出してはならない。だつて私たちは「犯罪者予備軍」ではないのだから。結果的に、他者への恨みや怒りを抱える者は、社会の中で沈黙し、集団の中でも沈黙する。ジェノサイドの種子はこうして秘匿され、誰にも知られぬままむくむくと育つてしまう。

小田急線の事件の依頼を受けた時、私は同様のジレンマに陥った。事件と周縁化された男性の問題を関連さ

せて語つた場合、それは一部の男性を加害者予備軍として描き出すことを意味した。一方、「今回の事件は犯人の特殊性によるものである」と言うことは、恋愛から疎外されていることを深く悩んだり、時に他者への恨みや嫉妬の感情を抱いたことのある男性たちのリアリティをないことにしてしまうことに他ならなかつた。ステイグマを付与するか、それともリアリティを無視するか、私は難しい選択を迫られ、結局取材をすべて断つた。

ジェノサイド対策としての臨床に向けて

こうした袋小路に挑めるのが臨床という営みなのでないかと思う。例えば加害的な衝動性を煽らせているクライエントと出会つたとしよう。心理学はどうしても問題を個人の心理的傾向や障害、病理などに帰する傾向にあるが、臨床家がそうした姿勢をとれば相手は自身の問題を詳細には語らなくなるだろう。異常な存在として括りだされてしまうのを恐れるからだ。また、たとえマクロな

社会的視野を導入したとしても、「男性は生まれながらに有害である」という本質主義的な解釈に陥つたならば、いたずらに偏見を生産するだけにどまつてしまう。

確かに昨今起つているジェノサイド事件の多くが、不遇感を抱える男性によるものである。しかし、社会的に不遇であることや、男性であることを、加害の原因ではなく、あくまで加害行為を導く作用であると捉えてみる。その上で、不遇(感)はどのようなプロセスによって形成されてきたのか、男性性はどのような影響を与えているかなど、問題のマップングのきつかけとして用いる。いわば社会的属性や境遇を、ステイグマとしてではなく、自己理解のための鍵として利用するのである。取り除けない原因ではなく作用と見なせば、そこから距離を置く道筋を考える余地も開けてくる。単純なレッテル貼りに終始せず、社会的な作用と個人のリアリティをつかみながら、共同的に変化の道を進んでいく。こうしたジェノサイド対策としての臨床を立ち上げる必要があると思う。

# 現場（矯正施設）における考察

北海道科学大学 牧野高壮

はじめに

矯正施設で過ごす非行少年や受刑者に対する心理支援に携わって十六年ほどになります。個別の心理面接のほか薬物離脱に関する指導など、それはいくつかの心理支援業務を通じての関わりです。ただし、わたしは施設外部から訪問する形式で彼らと関わるのが常となっています。つまり、矯正施設と施設外での臨床を行ったり来たりしながら対象者と関わり、わたしがどのように「彼ら」を捉えるようになったのか、その過程を振り返ってみたいと思います。そして、本稿のテーマである「無敵の人」を、どのようにわたしが把握し

ているのかについて考察したいと思えます。

「モンスター」を出現させる「怖れ」

さて、ここでは矯正施設での具体的な心理臨床活動ではなく、もっと単純で、もっと基本的な気持ちに着目したいと思います。それは、支援者が会うことになる「彼ら」が、非行や犯罪に手を染めているということです。これまでの経験を振り返ると、彼らに向けて抱く印象は、わたしのなかで随分と変わっていききました。よく、社会的に許されざる行為をした彼らに対して、「許せない」気持ちを抱きやすいと聞きます。確かにそれは容易に想像できますし、湧

いてくる気持ちとして妥当なものです。しかし、もっと当たり前に生じるにも関わらず、スポットが当たらない気持ちがあるように思います。それは、「怖さ」です。実際の臨床業務の中で、収容されている彼らにわたしの個人的な情報が知られぬよう気を遣いますし、無用な危害が及ばないようにせねばという構えは強くなります。それらの態度を引き起こすものはいったい何でしょう。

記憶を辿りますと、不思議な感覚があります。支援者として関わった方々はそれなりにいるのですが、彼らのことを鮮明には覚えていないのです。これはどういうことなのか…。もちろん、古い記憶は思い出すのが難しいですし、他にもさまざま忘却の理由はあるでしょう。ただ、気になることがあります。当時のわたしは、「怖さ」に覆われていたはずですが、そして、怖さに覆われたわたしの目の前にいた非行少年や受刑者は、モンスターでしかなかったのです。そのモンスターが各々もっている個性は、わたしの頭に浮かびませんでした。怖さに覆われた得体の知れなさが際立つ存在だったのです。だから、当時の「彼ら」への記憶が薄い…。そんな解釈も成り立つように思えます。

その瞬間について、実際の例を挙げましょう。彼らの多くは、上着の袖から紋身（入れ墨）が見え隠れし、夏になればそれが部分的なものではなく全身に施されていることに気付きます。これは珍しいことではなく、矯正施設の中ではごく当たり前の光景です。それをはじめて目にした瞬間、わたしは平静を装いましたが、内心平気ではいらなかったはずで

す。その怖い気持ちは、わたしにさまざまな影響を及ぼしたと思います。矯正の領域に関わった当初の頃の



からです。矯正の場では保安が崩れることがもつとも重大な事態ですので、厳格で非常にしっかりと作られた構組みが構築されています。そのことを実感すると、彼らと関わっているわたしを、この厳格さが守ってくれていることに気がつきます。この気づきによって、わたしの怖さは影を潜めまです。強力な力がわたしに馴染み、その力を後光のように背負うことで得られる安心ですから、よくもわるくも彼らに影響を与えるでしょう。これについてはいろんなところで指摘されています。

ここでわたしが着目したいのは、別の理由です。それは現実的に構築された強固な構造のみならず、心理専門職が持つ特性にまつわることです。心理専門職は、彼らの背景を辿ることに従事するのが生業です。それにより、彼らが非行や犯行に至った道筋や生き抜いてきた過程を辿ろうとします。この理解がすすむと、彼らが今に至ってしまったことにはそれなりのワケがあることを知ります。これとともに、わたしの怖さは減りました。

つまり、わたしの目に当初映った対象は得体のしれない存在であり、いつこちらがやられてもおかしくないモンスターだったのです。得体のしれないモンスターの背景をとらえられるようになった時、支援をすることのできる『彼ら』がそこに出現します。この体験を得るまで、わたしには時間が必要でした。

### 「モンスター」が「彼ら」になる

——場面を移します。矯正施設では昨今、再犯防止の観点から非行や犯行の種類に応じて様々な指導が用意されており、わたしもその指導の一端を担っています。実施される指導は課題が各単元として決まっています。当初は実施にも不慣れなので、滞りなく進めることに骨が折れました。しかし何度も繰り返し取り組み、ワークの流れはわたしに馴染み、彼らに投げかける発問や、取り組むべき課題は浸透していききました。これにもなつて、ワークのどこが山場になりやすいか、わたしにも予測が立つようになりました。

モンスターではない『彼ら』が現れると、彼らから漏れ出る色んな意味に興味が向くようになりました。ワークをこなすことに苦心していたときは気がつきませんでした。彼の発言様式には、人柄といいたようか、その人なりの型がにじみ出ているのです。つまり、彼らが問題行動を引き起こす部分的特性だけでなく、彼らの生き方や価値観がそこに映し出されています。

——わたしが薬物の問題をもつた人と共にしたグループワークのことです。当初彼は、現状に至った深刻さを感じてはいませんでした。「自分次第ですよ」が彼の口癖でした。彼は腹立たしい気持ちを収められない課題を抱えていたのですが、それを解消するために薬物を使っていました。かつての結婚相手との関係も、結局は日常の諍いにより破綻してしまいました。良い思い出ではなかった。彼はそれに触れることは一切ありませんでした。しかしグループワーク終盤で、破綻した時の話題を彼は他のメンバーの前にして口にしたのです。彼の思いやりが

彼女に伝わらず、最終的には相手のそつけない態度に彼が痺れを切らす内容でした。それを聞いた他のメンバーがつぶやきました。「思いやりって、何なのかね…」——彼は何も答えず、静かでした。特別なやりとりが起きてはいなかったのですが、その後、単元が変わりつつ進む中で彼の口から「相手あつてのことなんだよな…」という呟きが多くなったのでした。

### やさしい

恐怖をモンスターへと置き換えることなく、そこに「彼ら」の個性を見出すことで事態は変わる——そんな結論を安易に言うと思われそうです。実際のところ「彼ら」は、娑婆の人間関係のなかで再びモンスターとして召喚され、何度も矯正施設に戻ってくることは珍しくないのですから。しかし、「モンスター」という「無敵の人」を生み出す一つに彼らを見るわたしたちのまなざしが関与していることを、ここに留めておきたいものです。

# 加害者臨床の立場から見た 「無敵の人」

原宿カウンセリングセンター

信田とよ子

加害者臨床という領域は、心理臨床の世界でかかわっている人はまだ少数です。そもそも虐待やDV（ドメスティック・バイオレンス）といった家族の暴力（加害・被害の問題）を扱ってきたのは、法務省等の司法領域で働く心理専門職が中心だったといえるでしょう。そこでは加害者より、犯罪者と呼ばれていました。

公務員でも研究者でもない立場で、二〇〇〇年代前半からDV加害者プログラムや性犯罪者処遇プログラムにかかわり、加害者臨床とそれを位置づけてきたのは例外的だったと思います。七〇年代から長年アディクション（依存症）臨床にかかわってきたことが、その背景になっている

と思います。アルコール依存症の家族は暴力まみれでしたし、その子供たちが受ける影響は言い尽くせないほど深いものがありました。父親が断酒し始めると同時に、思春期以降の子どもたちが次々と問題行動を呈する姿は今でも定番といってもいいほどです。

## アディクション臨床の基礎

私たちアディクションの専門家は、本人のアディクションからの回復を支援する以前に、家族を暴力から守ることが要請されました。開業（私設）心理相談機関は、医療制度に守られることもなく、心理臨床のメイソロードから遠く離れた現場でした

が、そのぶん自由であり、八〇年代という早期から暴力の加害者・被害者を対象とした心理相談（カウンセリング）を実施することができたのです。

周囲からは逃避や甘えとして批判されがちですが、アディクションは、本人にとっては最も確実に速効性のある「問題解決」なのです。さまざまな困難・挫折・傷つき（トラウマ経験）が積み重なった末の、「生き延びるため」の行為という自己治療的側面を忘れてはならないでしょう。これが自分から進んで援助を求めないことの大きな理由だからです。

## 家族の暴力とアディクションへの介入

ファーストクライエントはほとんどが家族であり、カウンセラーに求められるのは、①何が起きているのかを知るための心理教育的アプローチ、②安全確保のための介入、③本人をしかるべき相談機関（医療機関も含む）につなげるための行動修正などです。

この3点はアセスメントやコンサル

ルタントの要素も含まれますが、迅速で具体的であることが重要なポイントになります。なぜなら、クライエントの生命の危機がかかっているからです。家庭内暴力（息子から親への暴力）もそうですが、酔った夫の暴力が予測できれば、そのまま家に帰れば危険なので緊急避難を勧め、ビジネスホテルや家族入院可能な病院を紹介する必要があります。

当面の身の安全を確保するための家族への介入を、本人が治療・援助機関につながるチャンスとする。これはアルコール依存症の家族初期介入の基本です。本人からの脅しや懇願によって家族は振り回され、その場しのぎの対応が続けがちです。そこに介入するカウンセラーは、本人からは敵対的に受け取られがちです。これはDVのカウンセリングと同じ構造です。妻が逃げたのはカウンセラーが扇動したと考える夫は珍しくありません。

## 第三項という選択肢

その際、念頭に置くべきは「無敵



の人」を生き出さないようにすることです。妻が逃げる、親が急に姿を隠す、といった事態が本人を追い詰めてしまうことのリスクを熟知しなければなりません。秋葉原の無差別殺人事件と類似の構造が、しばしばDV関連の事件では見られます。二〇〇六年の吉野川DV殺害事件は、妻子が逃げたあと、夫が執拗に私立探偵を使って居場所を突き止め、三人の子どもたちの前で妻を殺害したというものでした。

アディクション臨床では、依存症Ⅱ病気という命題を利用して、「あなたを愛しています、でも酔ったあなたと暮らすことはこれ以上できません。専門治療を受けるためなら協力します」といった文言を本人に伝えます。つまり依存症専門治療を受けてほしいという第三項としての突破口を用意することで、無敵化を防ぐのです。

しかし近年のアディクション臨床では、このような介入そのもののリスクが問題とされています。出口なしの状況に追い込んで治療につなげるという方法自体が、無敵化を促進

したり、時には酒量の増加から死に至らしめる危険性があると考えられるからです。「動機づけ面接法」(Motivational Interviewing)などは、そのような反省から生まれたと言われています。

### 素朴な疑問

私に加害者臨床にかかわるようになった経緯はご理解いただけだと思いますが、いろいろな場所で必ず投げかけられるのは「DV加害者ってほんとうに変わるんですか」「DV加害者プログラムって効果あるんでしょうか」という素朴な質問です。

日本では、DV加害者プログラムは公的には実施されていません。なぜならDV防止法は禁止法ではないからです。つまりDVで妻を恐怖に陥れ110番通報されたとしても、法律に触れるわけではなく、妻が夫を告訴しないかぎり警察は逮捕できないのです。北米や韓国では、DV禁止法が制定されており、逮捕→留置→裁判→裁判所命令による加害者更生プログラム受講という道筋が明

確です。つまり無敵化する以前に、司法的関与によって本人のリスクアセスメントが義務付けられ、裁判所命令という強制力によって加害者更生プログラムが義務化されているのです。

ひるがえって日本ではどうでしょう。被害者がシェルターに逃げたとしても、加害者に対するアプローチは皆無です。いわば放し飼いになっただけで、すべてを失った(妻子がいなくなる)という現実を受け止めきれず、彼らは無敵化していきます。報道は少ないですが、ストーカーなどの殺害動機としてこのような言葉を語る男性は珍しくありません。

### 無敵化防止の機能

上記の質問に対して、無敵の人というキーワードを使うとひとつのこたえが導き出されます。家族の暴力の加害者に対してなんら法的規制・処罰がない日本において、妻子が逃げた後に彼らが無敵化することを防止するために加害者プログラムは必要なのです。被害者意識に満ちた彼

らが、同じような状況の男性とグループに参加し自分のことを語るという意味はこの上なく大きなものがあります。アルコール依存症の男性が、酒をやめたくない、しかし妻が出て行くことは阻止したいという状況から、専門治療という第三項の突破口につながるのとそれは似ています。

加害者臨床とは、被害者に責任をとるために、再発防止といった社会防衛のためにも不可欠なものです。そもそも家族における暴力加害者に対する法整備が不十分な日本において、加害者が野放しのまま無敵化するのを防止する機能を果たしているのではないかと思えます。

この言葉を語る際に、ジェンダー的視点は欠かせないのではないのでしょうか。なぜなら、無敵の人のほとんどが男性だからです。追いつめられた男性たちは、自傷行為や死を選ぶのではなく、なぜ他者を、時には無差別に殺害する方向を選んでしまうのでしょうか。これは男性性研究にもつながる視点ではないかと思えます。



# 「無敵の人」と表現してしま うことのリスク

## ネットスラングの使用に関する リスク

私が「無敵の人」という言葉を知ったのは安倍元総理が殺害された事件の後でしたが、初めてその言葉を聞いたときには、事件のインパクトもあって、罪に問われることを厭わない傍若無人で無感情な人に対する非難の意を込めた言葉だと理解しました。

その言葉を Wikipedia で調べてみ

北海道大学大学院

井出智博

ると、「無敵の人（インターネットスラング）」と表示されます。大学の授業では「書籍や論文で調べるように」と指導しますが、インターネットスラング（ネットスラング）を理解しようとする時、世界中の人の手で共同編集され続けている Wikipedia ほど心強いものはありません。ネットスラングは、匿名化された人の手で様々な意味が付与され続け、その変化はとても速く進むこともあります。それが私たちの日常

に身近で起きている事象を体験される感覚に基づいた形で表現するネットスラングの面白さであり、受け入れられやすさでもあるでしょう。結果的に時世を反映した言葉としての価値を持つこととなります。心理学の専門用語が匿名ではなく記名で、学会発表や研究論文など目に見える議論を経て定義されるのとは異なる特徴を持っています。しかし、だからこそ、ネットスラングの使用には本来とは異なる意味で用いられ、意図せずに特定の誰かを傷つけ、排除する動きにつながったりするというリスクもあります。例えば「メンヘラ」というネットスラングに関する研究ではネット上で「メンヘラ」という言葉が用法を変化・拡大させながら用いられてきたことが指摘されています。当初「メンヘラ」という言葉はメンタルヘル스에問題を抱えた当事者が集うインターネット掲示板でそこに集う自分たちを表現する言葉として用いられていましたが、その後、精神的な問題を抱えている人たちを揶揄する意味合いを含んで用いられるようになりました。

## 特定の言葉で一括りにする リスク

またネットスラングではなくとも、ある特定の状況にある人、あるいは特徴を持つ人を指す言葉を使用する場合のリスクにも目を向けておく必要があります。例えば「モンスターペアレント」という言葉があります。学校や教師からすると過剰ともとれるような無理難題を押し付けてくる保護者を表現しようとした言葉ですが、この言葉が広く用いられるようになったことで学校や教師はすべて善であり被害者であり、学校や教師に様々な要求を出す保護者は化け物、怪物であるため、その要求は「すべておかしいもの」と決めつけられる風潮が進んだという批判もあります。このようにある言葉で特定の人たちを一括りに表現しようとするとき、そこに含まれてしまった個々の人々の想いや考え、彼らを取り巻く状況に注意が向けられなくなってしまうったり、彼らを自分たちとは違う異質な人たちとみなすステレオタイプを生むことになってしまったりす

るリスクがあるのです。

### 当事者が置き去りにされる リスク

少し違った側面からも考えてみましょう。近年、ヤングケアラーとされる子ども、若者に社会的な関心が向けられるようになってきました。ヤングケアラーという言葉が広く使用される前に比べると私たちは彼らの存在を格段に意識するように（せざるを得ないように）なりました。

このように、ある言葉が提案されることには、それまで見えにくかった人の存在、無いことにされてきた問題を顕在化するという肯定的な側面もあります。一方、ヤングケアラーと呼ばれることに対して複雑な思いを持っていると話す若者たちもいます。彼らはケアラーの役割を担わなければならないことで様々な機会を失うことは確かに不利益だと感じつつも、自身がヤングケアラーと呼ばれることでケアを必要とする家族が負い目を感じてしまうのは不本意だといえます。彼らはその呼称が「ヤングケアラー」よくないこと」とい

う一面だけに焦点化された理解や価値に基づく価値を含む表現になってしまっているとしたらヤングケアラーと呼ばれることを不本意に感じるというのです。

### 心理支援に関わる者として

安倍元総理が殺害された事件の後、一〇年以上前に初めて「無敵の人」という表現を用いたひろゆき（西村博之）氏は『無敵の人を減らすために出来ることを徒然と。』という動画を彼のYouTubeチャンネルで公開しました。その動画の中で彼は、

死刑になったり逮捕されたりするのを怖がらないで罪を犯す人を「無敵の人」と表現したと説明しています。そして「無敵の人」は社会から排除された結果であるため、人を排除する考え方自体を変えていく必要があるというメッセージを発して動画を締めくくっています。なるほど。ひろゆき氏は「無敵の人」という言葉にそうした想いやメッセージを込めて使用していたのです。このようにその言葉を用いた人からその言葉を

使った文脈、想いなどを聞くことができるとその意を理解しやすくなります。冒頭に述べたように私がその言葉に最初に触れた時に感じた語感とはずいぶん異なっていたようです。しかし彼が「無敵の人」という言葉を初めて紹介した当時のブログを読むと、最初からそうした意識を持つて使用していたわけではなく、むしろ彼らの存在を排除するようなニュアンスで書いているようにも感じられ、彼の中でも「無敵の人」が含まれる意味やニュアンスが変化してきたことがうかがわれます。

特定状況、立場にある人々を表現する言葉は、それまで埋もれていたその存在に光を当て問題を顕在化させますが、同時にそれまではなかったはずの境界を生んだり、個人のエピソードを埋没させたりするリスクも含んでいます。社会的排除を経験した人々に対する心理支援では支援者がそうした問題に対してどのような姿勢で向き合っているかが支援の成否を左右する重要な要因となるために、支援者がどのような表現を用いるかなどに対して敏感である必

要があるということも指摘されています。「無敵の人」という表現を安易に用いることよって心理支援者が社会的排除に加担する側になってしまい、無敵という言葉で表現されているような感覚を強めてしまうことも起こり得るかもしれません。

社会的排除を経験してきたような方と関わることの多い心理支援者としては「無敵の人」というような言葉を用いることを、一度立ち止まって慎重に考えてみる姿勢も持つておきたいと思えます。

#### ●参考文献

- 寺田拓晃・渡邊誠（二〇二二）『メンヘル』の歴史と使用に関する一考察 北海道大学大学院教育学研究院臨床心理発達相談室紀要4 p.116
- 小野田正利（二〇一五）『それでも親はモンスターじゃない』学事出版



# 日本心理臨床学会 第42回大会について

大会委員長 青木紀久代

読者の皆さんもご存じのように、新型コロナウイルス感染症のパンデミックによって、この3年間、私たちがこれまで当たり前のように参加していた多くの集いの場が奪われてきました。失つてみて初めて、それがどれだけ私たちにとって大切なものだったか、生活のあらゆる場で気づかされました。

本誌「心理臨床の広場」の発行母体となる、日本心理臨床学会も、心理臨床の実践をじっくりと検討し、学術的な成果を共有するために、会員以外には原則非公開となる対面方式での学術大会を毎年開催してきましたが、コロナ禍の2年間は、We

b方式の開催を余儀なくされました。その後、昨年の第41回大会において、通常より規模は小さいながらも、ようやく対面方式での開催を復活させることができたところです。

コロナ禍4年目となる第42回大会は、2023年9月1日から3日間、パシフィコ横浜で開催される予定です。現在大会実行委員会を中心に準備が進められています。どの様な大会になるのか、これまでとどの様に異なるのか、非会員の皆様とも共有可能な範囲で、できる限りお伝えしたいと思います。

第42回大会のメインテーマは、「心理臨床学の新たな多様性を拓く」

となっております。

この3年間、新型コロナウイルスは、いまだ収束に至らぬまま、大規模な自然災害、新たな紛争、戦争など、私たちを取り巻く世界の環境が、急激にかつ大きく変化しています。

こうした中で、ますます多様化し、複雑化していく人々の心の問題に真摯に向き合い、心理臨床の実践と学びを深化、発展させることを通して、社会に対する本学会の責務を果たしていこうとするものです。

前回の第41回大会から、2年続いたWe b方式の大会運営で得た新たな経験知を理事会主催として検討し、オンラインのメリットを生かしたハイブリッド方式を採用しました。会員の参集規模は、従来よりも小さくなりましたが、本学会の学術的成果の根幹となる事例研究の発表を再開させることができました。

本大会では、基本的に前期理事会の方針を継承し、発表内容をより充実させていくことを目指します。実際に2つの形式で行われるコンテンツはコロナ禍以前の大会の内容よりも数多く、運営予算も学術大会を2

つ行うのと等しいほどになります。

これまで開催のプログラムが実行できず、縮小傾向にあったところから、新たな開催方式によって、大会のあり方にも大きな転換が生じることとなります。この意味でも、理事会主催による第42回大会は、本会として新たなチャレンジであり、ここで見いだされる様々な課題を整理して検討し、今後の50回大会へ向けて、バトンを繋ぎたいと思っています。

## 大会の開催形式

第42回大会は、対面大会の部とWe b大会の部から構成され、会期は次の2期間です。第41回大会と異なり、対面大会後にWe b大会を開催いたします。

対面大会…2023年9月1日(金)  
3日(日)

会場…パシフィコ横浜  
We b大会…2023年9月22日(金)  
10月12日(木)

We b大会では、様々なコンテンツがオンデマンド配信されます。ま

た、大会発表等と並行して、自主シンポジウムもこの期間にライブで開催されることになっています。

## 第42回大会の主な企画内容

### ① 対面大会

口頭発表…会員の皆様の発表については、従来行われてきた形式全てが可能となります。特に「事例研究」「臨床教育」の発表は、対面大会の要となるものです。口頭による発表後に指定討論者のコメントがなされ、会場参加者とライブで討議を深めます。発表数も会場、時間等を最大限確保する予定です。この他にも、理論・調査研究の口頭発表も予定されています。

ポスター研究発表…発表内容をポスターにして掲示し、参加者と直接コミュニケーションを取りながら、研究や実践について情報を交換したり、新たな気づきや出会いが生まれる貴重な機会でもあります。この企画は、発表者もさることながら、参加者にとっても、関心のある研究テーマについて、発表者と実際に詳しく話ができるので、参加のモチベー

ションが湧く楽しい企画となっています。事例研究と理論・調査研究の双方が予定されています。

### 各種シンポジウム・特別講演…

大会テーマを掲げたメインシンポジウムの他、心理臨床の多様性を拓く興味深いテーマでシンポジウムが企画されています。常設委員会企画の他、会員から公募したシンポジウムも含め、10数本が並びます。

また、特別講演、学会奨励賞受賞講演が企画されています。この受賞講演はWeb大会でも配信予定です。

### ② Web大会

海外研究者の招待講演、常設委員会企画、会員から公募したシンポジウムが、対面大会企画とほぼ同じボリュームでWeb大会独自のコンテンツとして用意されています。

また、対面方式で発表されたポスター発表（理論・調査研究）並びに学会奨励賞受賞講演の再掲が予定されています。今期業務執行理事会からのメッセージ動画も準備中です。

さらに、この間、会員が主体的に運営する自主シンポジウムが、ライ

ブの双方向型で毎日のように企画されていますので、3日間の対面型集会和合わせると、これまでになく充実した学術的な新しい体験が可能となるでしょう。

今後も創意工夫をしながら、全国、あるいは海外におられる多くの会員の皆様が、様々な形で学術的な集会に参加できる機会を増やしていきたいと考えています。

### 一般向け公開動画の配信

Web大会では、非会員である一般の方々にもご覧いただける動画を公開いたします。本誌の読者の皆様なら、どなたでもご覧になれます。

高校生対象の企画、大学学部生対象の企画、大学院生や修士生対象の企画など、心理臨床学に関心を持ってくださる様々な年代、ニーズを想定した有意義な情報をお届けするための動画となっています。

心理臨床学及び実践の魅力や、専門職としての仕事の紹介、あるいは、様々な研究領域についてわかりやすく紹介することを目的としたコンテンツとなります。本誌の編集を担当

する広報委員会と大会委員会の共同企画として準備中です。

なお、学会のホームページ（一般社団法人日本心理臨床学会 <http://jppsi.jp>）でも、これまで作成した動画を視聴することができますので是非ご覧ください。また、本誌のバックナンバーも、今期から一部が掲載されるようになりました。こちらも併せてご覧ください。

この原稿を執筆している現在も、9月の社会的状況がどの様になるのか、明確に把握することは困難です。ですから、対面開催の実現が絶対とは言えない、苦しい現状には変わりありません。

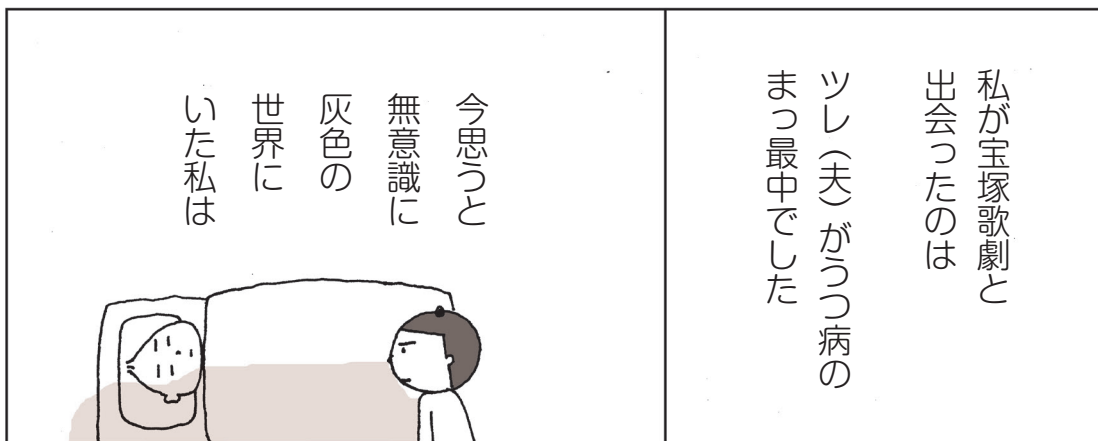
けれども、会員の皆様の、貴重な実践経験をもとにした研究報告が、一つでも多く会員に届き、それぞれの心理臨床、心理臨床学の発展につながる機会が生まれることを願い、大会実行委員、理事一同力を尽くして準備を進めているところです。

再び横浜の地で、多くの会員の皆様と集い、語り合うことのできる日をお待ちにしています。

# てんてん こころの広場に行く

その13

ほそかわ てん てん  
細川 貂 々



今思うと  
無意識に  
灰色の  
世界に  
いた私は

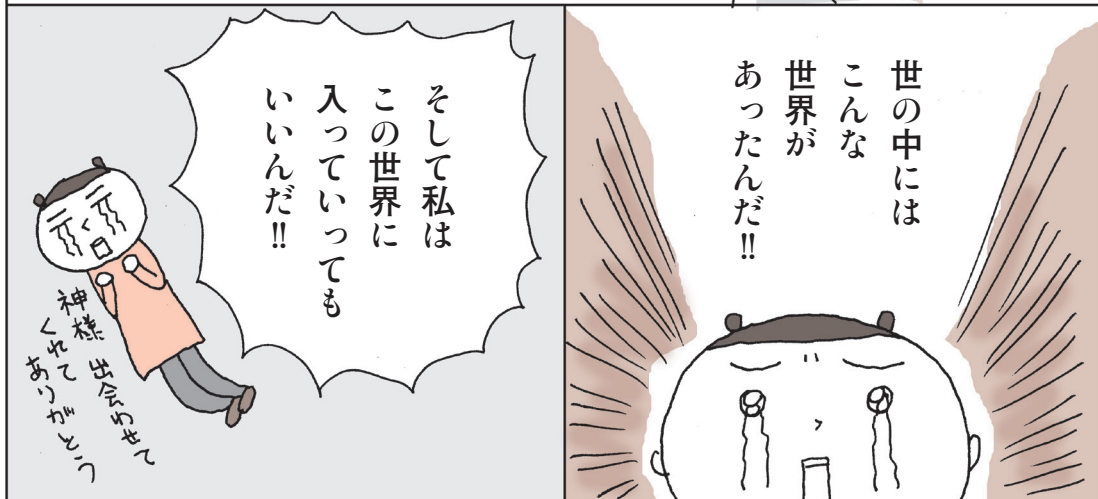
私が宝塚歌劇と  
出会ったのは  
ツレ(夫)がうつ病の  
真っ最中でした



シヨックをつけた  
のだと思います

キラキラ輝く  
カラフルな世界に

突然  
見せつけられた



世の中には  
こんな  
世界が  
あったんだ!!

そして私は  
この世界に  
入っていても  
いいんだ!!

神様 出なせせん  
くねて  
あーがーん

細川貂々(ほそかわ・てんてん) 1969年生まれ。セツ・モードセミナー卒業後、漫画家、イラストレーターとして活動。『ツレがうつになりまして。』が大ベストセラーに。『それでも母が大好きです』、『わたしの主人公はわたし』、『日帰り旅行は電車に乗って 関西編』、『生きづらいでしたか?』など著書多数。

あれから16年  
たちました

ツレのうつ病は  
かんかいして  
ツレは元気に  
なりましたが



私のタカラヅカ熱は  
健在です!!

好きすぎて  
宝塚市に  
引越しちゃいました



宝塚歌劇は  
私にとって

心の栄養分

を補じゆうして  
くれる所です



大劇場のイスに座って  
三時間観劇する  
だけで

パワー  
チャージ  
パワーアップ  
お肌ツヤツヤ  
自己肯定感も  
あがります



これは私の  
考えですが

舞台上に立ってる  
タカラヅカエン又さんの  
パワーが強くて  
それを客席で  
浴びるから  
パワーチャージできるのだと  
思います



今の私の目標は  
94歳まで生きて  
宝塚歌劇150周年  
の式典を見る  
ことです!

そのため  
に  
長生き  
したい

# 対象喪失の痛みに向き合う



こども・思春期メンタルクリニック

山崎孝明

「対象喪失」というとちょっと響きが固いかもしれませんが、「大切なものを失う」という意味です。生きていると、ごく稀なものからありふれたものまで、たくさんの対象喪失を経験します。

当然のことですが、対象喪失はつらいものです。もつとも典型的な対象喪失は死別ですが、とてもつらいことであるからこそ、葬儀という儀

式があります。その後も一周忌、三回忌、七回忌……と儀式を重ねることになっていくのは、人が喪失をこなしていくための知恵なのでしょう。

しかし昨今、葬儀に限ったことではないですが、「儀式」は「意味がない」「形式的なものに過ぎない」といった理由で敬遠されたり、行われなかったりすることが多いようです。それは私たち人間が強くなった

わけではなく、「いつまでも引きずっていても仕方がない」といった「ポジティブ」な価値観がよいものだと思われるようになったからでしょう。ほんとうは引きずっていても、それを人前で表に出すことは歓迎されない世の中になってしまったのかもしれません。

価値観が変わったところで、私たちが痛みを感じないスーパーマンに

なったわけではありません。私たちがどれだけ進歩しても、「大切なものを失う」のは悲しいことです、痛いことです。

本特集は、哀しみのさなかにいる方にはそれが当然であることを思い出す、そうでない方には喪失の痛みへ思いを馳せる、きっかけとなることと思います。

**この世にいないお別れ・この世に  
いるけどいないお別れ**

「昨日の夜まで元気だったのに」と、突然の脳梗塞で親を失った子は淡々と言い、「自分のせいどころなかつた気がする：何でなにもしてあげられなかつたんだろう」と、親の急な自殺を経験した子は自分を責めるように言いました。長らく居所が不明なままだった親が既に亡くなっていたことを知らされた子は、どう理解していいか分からず当惑し、「もっと早く知りたかつた」と呟きました。様々な理由によって家庭から分離した子の暮らす児童福祉施設での勤務経験やSC活動等を含めて、私は色々な形で親とお別れを経験した子ども達に出会います。そこでは親が「この世にいない」お別れによる「さようなら」を伝えられない無念や「拭えない葛藤・晴れない疑問」を聴くことがありました。その話題には触れず、ただ黙って座っている子、感じている気持ちを言葉で

はなく絵などで表現する子、なかには無理にテンションをあげて不自然な作り笑いをする子もいました。唐突な親との離別体験の傷つきは、シヨックだという感情を言葉にできなかつたり、離別体験そのものを無かつたことにしてしまつたり、自傷他害といつた不適切な行動化や不登校・引きこもりなどを生じさせたりと、あらゆるパターンでその影響を示します。

親はいるけれども一緒に住み暮らすことができなかつた、という事情を抱える子も多く存在します。それは親が「この世にいないけどいない」という、存在はしているけれども会うことのできない不確かなお別れ、いわゆる「曖昧な喪失 (Boss, P, 2010)」です。例えば親が離婚した、行方不明になつたが生存確認はできている、逮捕・勾留された/服役した、などが挙げられます。あるいは親が子を虐待するような、不適切な養育態度を示すリスクが高い場合、子の身柄

保護のためいつたんお別れをしてもらうこともあります。このように、「さようならではないさようなら」という曖昧なお別れは、子のころころに理不尽さや不安全感を生みだし、自分の存在価値を不当に低めてしまつたリスクがあります。

**日常に起きるお別れと離別を体験  
したときに大切なこと**

それぞれ親とお別れした事情は異なりますが、共通して言えるのはいづれも物理的に切り離されることで、悲しい・寂しいという感情が湧きあがつたり、自暴自棄になつたり周囲へ不信感を抱きがちになることです。一方で異なるのは、前者は混乱しながらもいづれ明確なお別れとしてその感情を抱き、後者は混乱し続けながらその感情を抱く点です。さらに会えなくなるわけではない、日常に起きるお別れも存在します。例えば親の認知や身体機能が著しく衰えていくことで親自身が自分のことで手

一杯になる場合や、以前なら普通に接してくれた親が、子に意識を向けなくなるといつたように、交流のあににいるのにいない」状態です。

なんらかの形で親とお別れをしたとき、悲しみや不安、怒りや戸惑いが突如として、あるいはじわじわと生じることがあるかもしれません。自分だけの力で気持ちを落ち着かせることもあれば、大丈夫なふりをすることもあるかもしれません。そんなとき、自分を責める必要は全くありませんし、もし話してみてもよいと思つたら信頼できる誰かに率直にその感覚を伝えてみてください。お別れがもたらしたシヨックを表現することは、ここらに本来あるはずの回復力 (resilience) を立ち上げることに繋がると私は考えます。そしてお別れを体験した子に関わる周囲の大人には、どんな些細なサインも見逃さない意識が必要です。

● 参考文献

Boss, P. (2010). The Trauma and Complicated Grief of Ambiguous Loss. *Pastoral Psychology* vol. 59, 137-145.



## 恋愛関係の終焉の意味

福岡県立大学 池志保

恋愛をすると、時には不安や不満を感じることもあるけれど、特別な幸せを味わえるものです。ところがその関係が途中で壊れて、終わってしまうこともまたあるのです。

### 失恋と心の不調

大好きな恋人を失うことは、とてもつらいことです。お互いが納得した上で恋愛関係が終焉する場合は穏やかに別れるでしょうが、実際はそううまくいかないことが多いのもまた恋愛関係です。浮気や裏切りが原因で別れると、憎しみさえ抱くでしょう。どちらか一方が別れたくて、どちらか一方は別れたくないというように、ふたりの想う気持ちに差が生じることは珍しくなくて、それが未練にもつながります。

臨床心理学的に考えると、失恋は大きな愛の対象を喪失してしまっているということになります。「対象喪失」とは、愛の対象や欲望の対象、依存の対象、または自己愛（自分を

愛する）の対象を失う体験を指している、その対象が自分にとって重要であればあるほど失ったことのストレスは大きなものになり、心身に不調をきたすこともあるほどです。誰も対象喪失など経験したくないと思うものですが、関係が壊れて大好きな人を失うこともよくあります。逆に自分が冷めて、恋人の心を傷つけてしまうこともあるでしょう。

### それでも人を愛することの能力

#### 「恋愛関係の終焉の意味」

恋愛関係がうまくいかない、苦しくて、寂しくて、生きていることにさえ意味を感じられなくなることもあるかもしれません。振られた側は自分には愛される価値がなかったのかとさえ思っただけ落ち込むかもしれません。

ただ、こんな悲劇もあります。ギリシャ神話には、ナルシストの語源にもなったナルキッソスという美男子が登場します。彼は人を愛する

ことができない青年だったため、彼に想いを寄せるニンフ（妖精）のエコーをひどく傷つけて遠ざけてしまっています。怒った女神の罰でナルキッソスは水面に映った自分の姿しか愛せなくなり、永遠に成就しない愛に苦しみ、遂には水仙になるという物語です。このように自分以外の人を永遠に愛せないナルキッソスも実は悲劇の人なのです。一方で人を愛せないナルキッソスに恋したエコーもまた、自分のことを愛せなかった悲劇の人かもしれません。愛することを真剣に考えたエーリッヒ・フロムは自分を愛せず他人しか愛せないこともまた、愛することができない人だとも語っています。愛することは、私自身も他人と同じく愛する対象になるし、基本的に繋がっているのだというわけです。

そう考えると、たとえ恋愛関係が終わったとしても、あなたが誰かを一生懸命愛せたのなら、それそのものにすでに尊い意味があるので



【エコーとナルキッソス】ジョン・ウィリアム・ウォーターハウス (1903年)

ないでしょうか。性の発達を考えたウィーンの学者ジークムント・フロイトは、人を愛することは成人の発達した能力だとも語っています。恋愛関係の終焉の意味を考えたその果てに、わたしたちは次の恋にも進んでいけるのかもしれませんが。人を愛することができるようになったナルキッソスと自分自身も愛せるようになったエコーとが、関係の終焉の先に出逢い愛し合えることを信じて…。

## 空の巣症候群とは

空の巣症候群とは、我が子が自立したあと、気持ちの落ち込みや喪失感・無気力感などを感じる親御さんの状態を指す言葉です。子供が育ち自立することを、鳥のヒナが自立して巣が空っぽになる様子に例えて、この名前がついたそうです。

程度は人それぞれですが、明らかに不適応状態を示すようであれば、周囲が気付いて温かい言葉をかけて下さるでしょう。しかし、苦しみを外に見せない方もいらっしゃるようで、こちらの方が長く慢性的な症状を伴うように思います。喜ばしいとされる我が子の自立ですが、多くの親にとっては少なからず喪失の痛みを伴うものなのです。

## 親の「喪失」、子の「獲得」

自立したお子さんの多くは元気に過ごしているでしょうし、会おうと思えば会えない訳でもありません。失われたものは、これまでの生活で

す。我が子と共に過ごしていた時間が丸ごと空いてしまったのです。一方で、お子さんは自身の人生が前に進むための礎を獲得したと捉えているかもしれません。そうだとすれば、親御さんと違って希望に満ちた気持ちで過ごしていることでしょう。

「喪失」を感じる親、「獲得」と感じる子供。親子の心の有り様が異なることは、自立への第一歩を象徴する出来事ですが、巣の中に残る親鳥にとっては、辛い現実を突き付けられるズレになるのかもしれない。

## 空の巣の中で行う仕事

人間はたくましいもので、喪失の後に再び立ち上がりえます。ですが、空の巣症候群には、立ち上がることを難しくする要素が多々含まれているようです。当然ですが、自立した後も子供は存在しており、親は自立を応援する役割を期待されます。我が子の存在を失った悲しみに耽るわけにもいかず、だからと言って応援

する気持ちにもなりきれない。さらに、自立を喜ぶ自分も心の中にいるのです。この気持ち達の落とし所を見つける困難は想像に難くないでしょう。空の巣の中で行われている親鳥の仕事は、新しい巣を作ろうと意気込む子供には見えないものです。特にこれまで手を取り合ってきた親子であるほど、この仕事は孤独な喪の作業となるのではないのでしょうか。

臨床の現場には、親の苦痛と子の困惑の両方が持ち込まれます。我が子の自立に伴う喪失の悲しみや、空虚感との付き合い方への戸惑いを語



る親御さんと、成人してからも親が頻繁に口を出してくると訴える子供です。どちらも空の巣症候群に関連した悩みとすることができませんから、親だけに訪れる出来事では済まずことができないと感じています。

## おわりに

ヒナが巣立ったあとに、親鳥がどのように過ごすかを調べてみました。意外でしたが、巣立った子供と一緒に行動をする親鳥もいるようです。ツバメは我が子と南の島に向かうし、ムクドリは空き家を放置して一家で引っ越します。もしかすると子供の自立を美德とするのは人間だけなのでしょうか。

さて、このコラムを書きながら、我が家の小さい息子もいつか巣立つのだろうという事実が目が向きました。そんなことを想像すると早くも寂しい気持ちが湧いてきます。空の巣症候群は誰もが直面する痛みなのかもしれませんね。

## 期待する子供像からの解放

焼津市立総合病院

井川ひとみ

### 親のこころの苦悩

私達の多くは親になったとき、子供にはこんな大人になってほしい、こんな人生を歩んでほしい、といった期待や夢を膨らませ、子供の成長を楽しみにします。しかし、わが子の障害を知らされたとき、親は当たら前に期待していた「健全な子供像」を喪失し、子供に託した期待や夢、思い描いていた未来を喪失すると言われています。

生まれつき障害を持った赤ちゃんの親の思いを聴いていると、溢れ出る怒りや悲しみ、出口の見えないトンネルにいるような不安、子供の成長への期待と諦めの間で揺れ動くこと、そして親自身の生き方の変革を迫られるような大きな問いに直面していることが伝わってきます。「期待する子供像」の喪失から回復に向かう道のりは並大抵ではないのです。また、障害によつては、その性質を理解するまでに多くの時間を要したり、発達段階に応じた課題や困難

に直面する度に、悲しみや葛藤が繰り返し再燃することもあります。親もまた、人生の長い時間をかけて心の仕事に取り組んでいるのです。

### 子供へのネガティブな気持ち

わが子の障害という現実には直面したとき、「期待する子供像」と「障害を持つ目の前の子供」とのあまりに大きな落差から、子供に対してネガティブな気持ちを抱くことがあります。「自分の子なのにかわいいと思えない」「どうしてこの子だけできないうらさう」——そんな気持ちを抱く自分を責め、その苦しみを一人で抱える方も少なくありません。けれども、親自身が大きな喪失を経験しているのですから、子供への思いも揺れ動いて当然なのです。

もし周囲に、自分の苦悩を否定せずありのまま聴いてくれる他者がいれば、気持ちも率直に言葉にすることが助けになります。多くの場合、たとえ子供へのネガティブな気

持ちを強く抱いていても、その奥には実に複雑で多様な気持ちが隠れています。自分でも受け入れがたい気持ちを「あつてよいもの」として誰かと共有できたとき、苦しみでいっぱいだった心に隙間が生まれ、隠れていた別の思いが表に現れてくることがあります。素直な感情の表出と、感情を共有する他者の存在は、傷ついた心を回復へと導く一助となります。

### 新たな希望

子供の障害をめぐる葛藤で苦しんでいた親が、前向きな気持ちになつたきっかけとして多く語るのは、子供の思いに気づき、心が通い合つたり、わずかでも変化や成長を感じたというエピソードです。打ちのめされて、先の見えない暗闇の中にいる親の心にそつと希望の光を灯すのも、障害を持った目の前の子供なのだと思えます。

その子なりの発達の道筋や成長の

希望が見えてくるまでの道のりは容易ではありません。子供の側に他者とやりとりする力の弱さがあったり、親自身が混乱した心理状態であるがゆえに、子供の発するサインや変化に気づきにくいことがあるからです。そんなときには親子だけで頑張るのではなく、発達支援の場であらう専門家のサポートを得て、子供を理解する手がかりを共に探っていくとよいと思えます。その子なりの成長を捉える新たな視点を取り入れることができ、わが子の持つ独自のよさに気づくことがあるかもしれません。障害を持った子供と共に歩む人生には、諦めること、子供の力を信じて取り組むこと、今最も優先すべきことを立ち止まって考えなくてはならない局面が何度も訪れることでしょう。発達支援の場にはその難しい問題を一緒に考える人がいます。親子が安心し、支えられる場があることは、子供の発達の可能性を拡げることにつながっていくと思えます。

## 喪失と不安

自分が信頼できる人に囲まれているとき、人は「安心」という言葉の意味を実感できません。しかし現実には、その安心感を脅かすやっかいな出来事が次々に舞い込んできます。

無力な乳幼児でなくとも、大人でさえ、安心感を持ち続けることは容易ではありません。ウクライナの戦場や各種の災害現場でペットや子どもを抱きしめながら涙する人々の姿を、報道で頻繁に目にします。

実は、心のケアを専門とする心理療法師もその例外ではありません。精神分析を創始したフロイトは、生後間もない時期に何度も喪失体験を被っています。母アマリアは、二歳で長男のフロイトを産んだ直後に流産を繰り返し、その後まもなく生まれた次男も病気で失っています。若い母親にとって、度重なる流産や死別が及ぼす喪失体験の重さは、容易に想像できません。この間、幼いフロイトの養育は乳母に託されました。

二歳半で、その乳母も突然いなくなるという喪失を体験しています。さらに、その後五人の妹や弟の誕生も加わったことによる母性喪失が、彼の不安傾向をより強めたのではないかと推測されます。

## フロイトと忠犬ヨフィー

では、心理療法師となったフロイト自身は、自らの癒しの手立てをどのように講じていたのでしょうか。

彼の子ども時代には、ペットに親しむ習慣はなかったようですが、大学での教授職を諦めて自宅開業に踏み切った後、ペットの存在が彼と家族が「安心感」を保つうえで不可欠となり、多大な癒し効果を発揮したようです。最近、ロンドンのフロイト博物館が掲示した、ブログによれば、フロイトが面接中もそばに置いていたペット犬のヨフィーが、終了予定の時刻になると決まって知らせたため、時計が必要なかったそうです。この微笑ましいエピソードは、ペッ

トのヨフィーがフロイト・ファミリーの安心感を陰で支えた重要なチーム・メンバーだったことを雄弁に物語っています。

## ペットロスからの回復

心理療法の大家でさえ必要とする癒しの力を持つペットを失うことが、一般人にとっても大きな喪失体験となることは言うまでもありません。

いわゆる「ペットロス」は、ペットとの生活経験がない方には想像がつかないほど深刻な心理的障害となり、積極的な心理支援が必要になることがあります。私自身の臨床経験でも、ペットロスに対処しようとしてクライエントが編み出した工夫を教えるも、それがありません。たとえば、ある親子の場合、亡くなった愛猫によく似たぬいぐるみを買ってきて、それを居間に飾っていたそうです。深刻な愛着障害をかかえた息子はすでに三〇歳を超えていたのですが、就寝時にはそのぬいぐるみを自室に

持ち込み一緒に寝ることで、安心感を得ていたようです。

その彼が、外出時に二匹の幼い野良猫を見かけて、ときおり餌を与えるようになったのです。二匹は双生児だったので、とても警戒心が強く、すぐに懐く様子はなかったようです。彼は、両親の協力を得て、地域の動物保護活動をしているNPO法人を通じて二匹の子猫の里親に引き取りました。子猫たちは生後すぐに捨てられたらしく、とりわけ警戒心が強い一匹は、餌を与えても食べようとせず衰弱していったそうです。しかし、親子三人が辛抱強く世話を続けることで猫たちは徐々に餌を食べるようになり、彼もその成長を温かく見守るようになったそうです。かつては野外で怯えながら生きていた猫たちが回復していく情景を想像しながら、私には、その世話をする親子もまた、心の絆を結び直しているように感じられました。

## 偽りの自分を卒業し、再びつくること

愛育クリニック／あさみ野心理オフィス 山口貴史

### 「偽りの自分」とは

「偽りの自分」とは、内心では全然思っていないのに周りに合わせて「面白いね」と言ったり、相手が偉いから「尊敬します」と言ったりするような「ごまかしの自分」、「忖度の自分」のようなものです。この偽りの自分に支配されてしまうと、

まるで誰かの操り人形のような人生になってしまい、自分で生きている実感をもてなくなってしまう。

とはいえ、ごまかしや忖度の自分は「本当の自分」（ありのままの自分）を社会から守ってくれてもいるので、「偽りの自分」が過度になり過ぎない程度に「卒業」することが重要になりそうです。

### 『ゆめパのじかん』

『ゆめパのじかん』（重江良樹監督）というドキュメンタリー映画があります。

川崎市子ども夢パーク（通称「ゆめパ」）とは、広大な敷地をもつ子

どもの遊び場で、お手製のアスレチックや不登校の子どもたちが通うスペースなどに分かれています。

映画に登場する寡黙な不登校の小学生のミドリはこう言います。「勉強そのものは嫌いじゃない。でも、学校でノートに写すだけの勉強が嫌いだった。」

このミドリの言葉に、偽りの自己であり続けることへの抵抗を筆者は感じました。小学校という社会で流れている「時間」に合う自分を急ごしらえで作り上げなければならぬ中で、ミドリは偽りの自分を過度にせざるをえず、疲れてしまったのかもしれないません。

ゆめパは何者にも邪魔されずに自由に遊ぶ「じかん」、とことん悩む「じかん」を保証してくれる場所であり、スタッフたちは子どもたちを見守り続けます。その中でミドリは木工と出会い、木片から鳥の姿を彫り出すボードカービングに没頭します。その姿は過度になり過ぎた偽り

の自分の中から本当の自分を掘り出そうとしているようにも見えました。

この映画が示唆していることは、人が「偽りの自分」を「卒業」するためには、悩める場所と見守る人の中で体験する「じかん」が不可欠であるということでしょう。

### 「偽りの自分」を失うこと

なぜ、そのような場所や人が必要なのでしょう。偽りの自分を卒業することは、自分自身を喪失することでもあるからです。友達がたくさんいる自分、親の自慢の子である自分。大人だって同じです。社会的な自分、組織で評価される自分……

うまくやっていた自分や役割を失うことは、非常に耐えがたいことです。そして、何かを失った時、人間には「喪の作業」（失ったものを悲しむ心のプロセス）が必要になりますが、その作業は重要な他者と居場所がないと難しいと言われています。

### 再び「偽りの自分」をつくる

映画では、「そんなんじゃないだよ」、「作っていて楽しいだけではない世界があるんだよ」と、ボランティアの木工職人から厳しくも愛情深い言葉が飛んできます。そうして「じかん」の中に厳しく責任が求められる大人の「時間」が入り込み、せめぎ合いが生じる中で、本当の自分を守るための偽りの自分がゆつくりとつくられていきます。

筆者はこのゆつくりとがミソだと思っています。急激ではなく、ゆつたりとつくられる偽りの自分は、過度で人生に虚しさをもたらすものではなく、適度で本当の自分を守ってくれるものになりうるからです。

子どもも大人も、生活の中の「時間」と「じかん」を振り返りながら、「偽りの自分」と「本当の自分」のバランスを考えてみることは人生を豊かにしてくれることでしょう。

忘れたくない。

「忘れたいわけではないんです。赤ちゃんのことを話したいし、聞いてほしい。でも話せない。」

赤ちゃんとお別れしなければならなかったご両親からたびたび聞く言葉です。周産期死亡率が少なくなっている現代日本では流産や死産は日常的に話題に上ることはあまりなく、社会的文化的に、聞かないほうがよいこと、話にくいことと捉えられる風潮があります。そうなる、「話したいが話せない」という状況になり、孤独感や理解のしてもらえなさから一層辛い思いをしたり孤独感を抱いたりする方も出てきます。

話してもよいし話さなくてもよい。自分のペースで。

「話す」ためには「聞く」人が必要になりますが、聞く側の姿勢がどのようなかによって、話す側の「話を聞かせてほしい」という思いは揺れ動くでしょう。また、当事者自

身が「まだ今は誰かに話すのは少し怖い」と感じ話さないこともあるのではないのでしょうか。言葉にするのは勇気が必要なことです。話すことで自分自身の心の揺らぎがどれほど大きくなるのか分からないという不安や、相手を困らせてしまわないか、相手の反応に自分自身傷つかないかといった気持ちや考えが湧きあがっ



てくることもあります。また、そう簡単に言葉にはできない思いがたくさんあるかもしれません。それらを少しずつ整理したり言葉にのせたりすることは当事者自身にとっての助けになると思います。しかし、無理に話す必要はもちろんなく、大切に自分の心の中においておくことも出て来ます。ただ、話したくなった時に、安心して話せる場があることはとても大切です。

ずっと想っていたい。

流産や死産は「妊娠の終了」「出産に至らない」ということですが、当事者にとっては「お腹の中のこの子を喪う」体験です。流産や死産は大切なわが子の喪失なのです。そのような大切な存在を「忘れたいわけではない」のは当然のことです。人によっては、「自分が元気になってしまふことは、赤ちゃんを忘れてしまふことであるような気がして、元気になることに抵抗がある」という

ことをおっしゃる方もいます。悲しみや悼みがあるのは、やはりお別れした赤ちゃんがそれだけ大きな存在であるからだ、と、流産や死産をなさった方のお話をうかがっていると感じます。母親や父親としてわが子を想う温かく優しい想いに触れると、橋本洋子先生が〈妊娠に気づいた時点から、女性はかけがえのない存在としての「いのち」と出会っているのではないかと思う〉(二〇〇六)と記されていたことを思い出します。流産や死産という形でお別れすることになったとしても、親子の関係性や絆が絶たれるわけではないことを私たちは認識している必要があるのだらうと思います。

● 引用文献  
橋本洋子(二〇〇六)「周産期の心理臨床」  
臨床心理学(6) 732-738.

かつての加害国に属することに関連するトラウマ、恥、罪悪感に対処することが、社会としても個人としても、いかに困難なことであるかを上げています。この問いは、日本においても、異なる形で関連性があると思います。とりわけ、大量虐殺の子孫を対象とする私の臨床活動は、暴力的な歴史の影響が消えることはないことを教えてくれました。精神分析では、歴史的なトラウマは残り続け、私たちがそれに対処できるようになるまで、その存在を思い起こさせると教えています。この視点は、私が行う執筆活動や研究にも大いに活かされています。

——新刊の『文化 政治 人種 対人関係精神分析の形成』と『破局の縁 エーリッヒ・フロムとホロコースト』を執筆した経緯について教えてください。

今日の北米では、心理学や精神分析の実践において、社会的、文化的、政治的な要因が果たす役割に強い関心が集まっています。これは、米国におけるトランプ政権時代の右派政治の盛り上がりに関係していることは間違いないと思います。様々な差別や人種差別が蔓延しており、それは治療関係にも影響しています。本書は、人間の経験における社会と政治の役割について語ることへの心理学的関心が、決して新しいものではないことを実証しています。1930年代、先進的な臨床家や学者のグループが、社会や文化というレンズを通して人間の経験を理解する視点を発展させました。このアプローチは、現在では「対人関係精神分析」として知られていますが、長い間「文化的精神分析」と呼ばれていたものでした。このアプローチは、ウィリアム・アランソン・ホワイト研究所の創設者である急進派の精神分析家たちが、人間は基本的に社会的存在であり、面接内で起こることは常に社会規範、価値観、信念の影響を受け、形成されると主張したのです。この社会的なプロセスについて知り、理解すればするほど、クライアントとの作業、そして、私たちセラピスト自身が常に社会によって形作られていることをより理解することができます。このことが意味するのは、個人として、あるものは見えても、ある

ものは見えないということです。例えば、50代の男性教授であり精神分析家である私は、社会の中で特権的な立場にあります。そのため、クライアントが語ることも、社会的な立場上、見えないこと、わからないことが多いかもしれません。これは特に、家父長制の社会では残念ながら強力な力を持っているジェンダーや人種差別といった問題に関連しています。私がここで述べているアプローチは、1930年代に初めて登場したもので、エーリッヒ・フロムの社会精神分析に多くを負っています。これは、今年末に出版される予定の私の最新作『Edge of Catastrophe: エーリッヒ・フロムとホロコースト』に関する質問とも関連しています。

——現在、日本にいらっしゃいますね。日本で臨床や精神分析について、どのような印象をお持ちですか？

私にとって明らかなのは、日本における精神分析は活気に満ちた思想と実践の場であり、日本の精神分析家が行っている多くの仕事は、日本を越えてより多くの読者に届く必要があるということです。私は、日本の精神分析は、西洋の心理学や、今日までさまざまな形の心理学や精神分析実践に組み込まれている西洋文化的価値観の脱植民地化において、特に重要な役割を担っていると考えています。私のように日本へ訪問することによってアイデアや視点の交換ができ、クライアントの経験であれ分析家の仕事であれ、特定の文化的文脈がどのように経験を形成するかという異文化間の認識を深めることにもつながります。今後数年間は、日本における臨床の豊かさを伝えるプロセスに参加し、脱植民地化という大きな問題に貢献できればと思います。

Roger Frie, PhD, PsyD, R. Psych

臨床家として、ニューヨークのウィリアム・アランソン・ホワイト・インスティテュートのファカルティおよびスーパバイザー。サイモン・フレーザー大学教育学部教授、およびブリティッシュ・コロンビア大学精神医学部准教授。著書に『Not in My Family ~ German Memory and Responsibility after the Holocaust』、『Culture, Politics and Race in the Making of Interpersonal Psychoanalysis: breaking boundaries』、『Edge of Catastrophe, Erich Fromm and the Holocaust』(出版予定) 他多数。

# WORLD MAP

ロジャー・フリー先生



鳴門教育大学 葛西真記子

ロジャー・フリー先生は、現役の精神分析家であり、同時に、臨床心理学者、歴史家、社会哲学者でもあります。現在は、京都大学の客員教授として臨床心理学・精神分析学を教えておられますので、今回、先生の長年の研究対象である歴史的トラウマ、ホロコーストのことなどについてインタビューしました。

——先生の専門分野は、歴史的トラウマ、文化的記憶、ホロコーストだと伺っています。どのようにして、これらのことに興味を持つようになったのですか？

精神分析家にはよくあることですが、私の専門分野には、個人的な背景が影響しています。私の両親はドイツ人で、私はカナダとスイスでバイリンガルとして育ちました。しかし、家族や親戚のほとんどはドイツに住んでおり、私もドイツ、特にベルリンによく行きます。ドイツでは、ナチスの行ったことに対する疑問は依然として非常に現実的で、ドイツには集団的な追憶の文化があります。一方で、個々のドイツ人、個々の家族は、自分たちの家族がナチスの時代に実際に何をしたのかについて知らないことが多いのです。私は歴史に関心を持ち、社会として、また個人として、私たちが過去からの影響によってどのように形成されてきたのかをよく理解するようになりました。集団的記憶と個人的記憶の間にあるこの緊張感が、記憶をテーマにした研究を行うきっかけとなったのです。同時に、精神分析家として活動する中で、ホロコーストやその他の世代間トラウマを生き延びた

家族を持つクライアントと多く関わってきました。ホロコーストの恐怖からくる苦痛やトラウマを語るクライアントの話聞くうちに、私自身のドイツの家族の歴史や、ドイツによるホロコーストの加害の遺産について、まだ答えのない多くの疑問があることがわかってきました。このように、歴史と記憶に対する私の個人的な関心と、被害者家族のクライアントと関わった専門的な経験が相まって、このテーマをより詳細に研究することになりました。この15年間、私の出版物の多くは、歴史的トラウマ、記憶の世代間伝達、加害の遺産と加害者集団の子孫への影響という問題を扱ってきました。

——著書『Not in My Family ホロコースト後のドイツの記憶と責任』について教えてください。

奇妙に聞こえるかもしれませんが、これは私が書こうと思っていた本ではありません。世代間トラウマとそれが大量虐殺の子孫に与える影響について研究している最中、私はドイツ人家族の中に、語られることのないナチスの過去を見出したのです。これは、ドイツにいる家族のもとを訪れた際、見慣れない制服を着た祖父の姿を目にしたとき、まったくの偶然から起こったことでした。同僚の勧めもあり、私は精神分析学会で、自分の発見とそれがクライアントとの関わりに及ぼした影響の一端を共有しました。やがて、私の家族の物語は、ホロコーストの生存者の子孫にとっても、ドイツ人加害者の子孫にとっても、より広い範囲で共鳴するものであることが明らかになってきました。他の心理学者や精神分析家の励ましもあり、私は記憶、トラウマ、責任の問題を扱った本を執筆することになりました。

この本は、加害者としての歴史を持つことや、



# 名古屋大学

## 心理臨床家養成の概要

名古屋大学における心理臨床家養成の中核を担っている心の発達支援実践センター心理発達相談室（以下、心理発達相談室と表記します）は、一九五五年に開設された「ガイダンス・クリニック」に端を発します。さらに、一九八五年に当時の文部省から「心理教育相談室」の名称で認可を受け、その後、改組を経て現在の名称となりました。このように、心理発達相談室は、我が国では非常に長い歴史を有する大学附属の相談機関かつ教育研修機関の一つであるといえます。現在では、名古屋大学教育学部・大学院教育発

達科学研究科は公認心理師に対応したカリキュラムを提供しており、教育発達科学研究科心理発達科学専攻精神発達臨床科学講座は日本臨床心理士資格認定協会の大学院指定制度一種に指定されています。教育発達科学研究科および心の発達支援実践センターには、二〇二三年四月一日現在、公認心理師資格、臨床心理士資格をもつ専任教員が八名在籍しています。他に、それらの資格もしくは医師免許をもつ六名の教員が、教育発達科学研究科の大学院科目を担当するなど心理臨床家養成に携わっています。このように本学では、心理臨床に関して、伝統を生かした

名古屋大学大学院教育発達科学研究科 田附紘平

がらぎめの細かい教育を行っています。

## 心理臨床家養成の実際

名古屋大学において心理臨床家を目指す大学院生の学びの中心には、講義、演習、学外実習に加え、心理発達相談室での学内実習があります。名古屋大学での心理臨床家の養成についてご紹介するために、大学院入学から二年間の大まかな流れを説明いたします。

名古屋大学大学院に入学した博士前期課程（修士課程に相当します）一年生は、春学期の間は主に講義や演習を通じて、心理臨床実践に関す

る知識や技術を習得します。そのなかで、個人面接、プレイセラピー、保護者面接、電話受付などに関して、大学院生同士でロールプレイを実施します。

夏ごろから、心理発達相談室での活動を本格的に開始します。申込のあったケースをインターク面接も含めて担当し、内部教員によるスーパーヴィジョンを受けながらクライアントとの面接を進めていくこととなります。実際にケースを担当すると、クライアントの理解や面接の方針など、分からないことに数多く直面し



心理発達相談室の玄関



2021年の改修後の第一プレイルーム

ます。そうした悩みについて、スーパーヴィジョン担当教員や並行面接を担当する先輩に相談するだけでなく、ケース会議の授業にて担当ケースの経過を発表し、教員、大学院の先輩あるいは同級生と時間をかけて検討します。ケース担当に伴う悩み事はすぐに解決しないものも多いですが、本学には、スーパーヴィジ

ン、ケース会議、大学院生同士の議論など新しい視点を得る機会が数多くあり、ケースへの自分自身の考えや気持ちを見つめ直すことができ

ます。博士前期課程一年の秋学期になると学外実習が始まります。本学では、博士前期課程一年の秋学期と博士前期課程二年の春学期に学外実習が提

供されています。博士前期課程の大学院生は、保健医療領域の実習に必ず参加することに加えて、教育領域、福祉領域、産業領域、司法領域のうちの二つを選択し、実習を行います。このように、幅広い領域の実習に参加し、多様な現場を体験できることが、名古屋大学の学外実習の特徴といえます。博士前期課程を修了するためには修士論文の執筆が不可欠となります。心理臨床

家養成の観点から見ても、臨床心理学の研究を行うことは、自身の専門性を高めたり、臨床心理学の知見の集積に貢献したりする上で、非常に大切です。名古屋大学では、博士後期課程への進学も見据えつつ、質の高い修士論文を執筆することを目指して指導が行われています。

### 心理発達相談室の特徴

心理発達相談室には、毎年度、四〇名程度の大学院生が在籍しており、そのうちの一〇名ほどが博士後期課程の大学院生です。心理発達相談室における活動の管理や運営は教員が担いますが、運営の一部には大学院生が参画しています。特に博士後期課程の大学院生が主体となつて、教員とともに心理発達相談室をよりよくするためにはどうすればよいのかについて議論しており、日々の本相談室の活動はそうした議論を基礎に成り立っています。大学院生による心理発達相談室運営への主体的な参加は本相談室の大きな特徴であり、教員として誇らしく思っているところでもあります。その一例として、

プレイルームの改修を取り上げたいと思います。心理発達相談室では、相談室環境の整備の一環として、二〇二一年に第一プレイルームを改修いたしました。その際、教員と有志の大学院生が一緒になり、これまでのプレイルームの良さを生かしながら課題を克服するための改修案を何度も練り直しました。その結果、身体を思いきりつかつた遊びができ、子どものニーズに合わせて遊びをアレンジできるようなプレイルームが出来上がりました。

### 最後に

名古屋大学の心理発達相談室は、故村上英治先生の教えを礎としています。村上先生は、一九八六年の本相談室紀要の創刊に際して、その巻頭言において「伴侶者としての私」のタイトルで心理臨床家のあるべき姿勢を論じておられます。名古屋大学では、村上先生の教えを引き継ぎ、現代の荒波にさらされながらも懸命に生きるクライエントの伴侶者となれる心理臨床家をこれからも養成していきたいと考えています。

# 上智大学

上智大学における心理学教育は、現在、総合人間科学部心理学および大学院総合人間科学研究科心理学専攻において行われています。学部の一学年定員は五五名、大学院の一学年定員は二〇名（内訳は基礎心理学コース五名、臨床心理学コース一五名）で、学生は合わせて数百人程度在籍しており、それを特任助教を含め一三名の教員で指導しています。

## 心理学教育の伝統

上智大学における心理学教育は長い伝統をもっています。一九七六年に、文学部に心理学が設置されました。一九九二年には、大学院文学

設置されました。一九九四年には、大学院文学研究科心理学専攻に博士後期課程が増設されました。二〇〇一年には、大学院文学研究科心理学専攻博士前期課程に臨床心理学コースが設置されました。二〇〇五年に総合人間科学部心理学、大学院総合人間科学研究科心理学専攻が開設され、文学部心理学および大学院文学研究科心理学専攻がそれらに移設されました。

上智大学においては、基礎心理学と臨床心理学の両方を学んでこそ心理学の学びが十全になるという考えのもとに、基礎心理学と臨床心理学の教育の両方を等しく重視しています。

## 総合人間科学部心理学科 吾妻 壮

専門職養成に関しては、公認心理師と臨床心理士の二つの心理職を養成しています。公認心理師は、総合人間科学部心理学科（学部）および総合人間科学研究科心理学専攻博士前期課程（大学院）において養成しています。上述のように大学院博士前期課程は基礎心理学コースと臨床心理学コースに分かれており、臨床心理学コースは日本臨床心理士資格認定協会の第一種指定大学院になっています。心理学の研究能力の基礎を養いつつ、将来心理専門職として活躍するための実践的な教育を行うことが目指されています。

## 幅広い学び

臨床心理学に関心のある方は、上智大学の心理学というと、ユング心理学や精神分析などの深層心理学的アプローチを思い浮かべる方が少なくないかもしれません。本学の歴任教員および卒業生にはこれらの分野で活躍している方々が多く、本学の誇りであります。一方、本学における心理学教育においては、既に述べた通り心理学を幅広く学ぶことが一貫して重視されており、大学院臨床コースにおいても、研究法および臨床の基礎を幅広く学んでもらいます。



待合室の様子



## はてしない物語



あざみ野心理オフィス 岩倉拓

不思議な本です。まさに手に取ったこの本自体が、二匹の蛇がデザインされた表紙であり、その本が物語の中に出てくるのです。物語は、本を読んでいるバスチアンという主人公と、その本の中のファンタジーエンという異世界、その物語を読む読者、という三層構造になっています。ひよっとするとこれは自分の物語なのかもと？と引き込まれていく不思議な構成なのです。

### 実写映画化の悲劇!?

昔の話になりますが、このはてしない物語が「ネバーエンディングス

表紙には二匹の蛇が描かれている。一匹は明るく、一匹は暗く描かれ、それぞれ相手の尾を噛んで、楕円につながっている

ミヒヤエル・エンダ(作) 岩波書店、一九八二年

トリー」として実写映画化されました。本書を愛読していた中学生の私は、期待を胸に映画を見に行っても原作とあまりにも違うことにひどくショックを受けたことを覚えています。実写映画化にがっかりすることを今は「原作厨」と言うそうです。まさに私はそれでした。映画には、この物語のもっとも大事な要素が欠けていたのです。この本を読まない人にも、そして映画だけ見ている大人にも、原作をぜひ読んでほしいのです。

### 「行って帰るし物語」

主人公は、現実の世界で母の喪失やいじめ、さまざまなコンプレックスを抱えています。ある日、本屋で出会った一冊の本に惹かれて、さぼった学校の屋根裏でそれを読み始めます。そのうちに「あちら側」である世界から呼びよせられ、ついに本の中の物語に入っていきます。「指

輪物語」を訳した瀬田(一九八〇)は、このような形式の物語を「行って帰るし物語」と呼びました。「こちら側」である現実界から「あちら側」の空想界に行くことは、現実界の閉塞や危機状態から、空想や夢などの無意識という異界への旅であり、冒険であり、探索なのです。それは成長のチャンスと危険を伴います。

### 「あちら側」に行つてからが勝負

映画では、バスチアンは簡単にこちら側に帰ってきて、いじめっこを魔法で懲らしめたりしているのですが、原作では全く異なっています。むしろ「あちら側」に行つてしまつてからが勝負なのです。

バスチアンは、ファンタジーエンで自分の願いを次々と叶え、最後にはその世界の万能の王に君臨します。その一方で、バスチアンは望みを一つ叶えるたび、こちら側の世界の大切な記憶を一つずつ失っていく、こちら側の現実に帰りたいという望み

を失っていきます。はたしてバスチアンはこちらの世界に帰ってくるこ  
とができるのでしょうか!?

### 帰ることの困難、そして狂気とは?

この「帰ることの困難」がこの物語の中核なのです。これは「現実」と「空想」の微妙で危険な関係について私たちに示唆を与えます。狂気やナルシシズムがどのような成り立ちであり、その狂気から現実界に帰還することが如何に困難で、大切なのかということをお話してくれます。現在戦争が起つていますが、万能空想から出てこれなくなつてしまつたバスチアンはまるで現在の独裁者が陥る病理をあらわしているようです。「はてしない物語」の「はてしない」の意味ですが、読んでもらうとその意味がわかります。物語は限りなく紡がれ続け、新たな物語を産んでいくことが実感できるはずですよ。是非ハードカバーで表紙を眺めながら一読することをお勧めします。

参考文献・瀬田貞二著『幼い子の文学』(中央公論新社、一九八〇)

# なんでも見つかる夜に、心だけが見つかからない

東畑開人〔著〕 新潮社、二〇二二年



こども・思春期メンタルクリニック 山崎孝明

本書は、タツヤさんとミキさんの二人の登場人物の、誰の身にも起こるような危機の時期、「夜の航海」についての物語を中心に、カウンセラー兼ナビゲーターの東畑の解説が挟み込まれる構造になっている。本書を通じて、七つの補助線が引かれる。

アテンションエコノミーの時代だ。世の中には解決を助けてくれる補助線ではなく、解決を示してくれる「心の処方箋」があふれている。断定口調で突飛なことをブチ上げて、耳目を引けば勝ち。そんな書籍や動画が氾濫している。そんななか、本

書の目指す方向性は真逆のものである。読者に時間をかけてモヤモヤと考えることを求めてくる。

だから、東畑は本書を「処方箋」として提示しているわけではない。「これを読めばスッキリしますよ!」と言っているわけでもないし、「これさえ読んでモヤモヤしておけばOKですよ!」と言っているわけでもない。本書は「読むセラピー」なのだ。

タツヤさんとミキさんの二人はいかにも今風の人物である。「人生においては常に成長を目指さねばならない」とでも思っているかのようだ。そうした思いが二人を追い詰める。視野を狭める。すべてをコストやタイプではかろうとする。性急に「答え」を出そうとする。苦しくなっただけでカウンセラーを訪れる。カウンセラー東畑は、「そうじゃないあなたもいるんじゃない?」と声をかける。すると二人は悩まなければならなくなる。スッキリしたか

ったのに、答えを出せなくなる。もどかしい。でも、カウンセラーにそう問われることで、二人は凍結されていた過去の傷つきを解凍する。そこには生々しい傷がある。

ミキさんとタツヤさんの人生は、起業家仲間として交錯する。二人は交際を始める。傷が露呈した状態の二人は、互いに傷つけあう。カウンセラーとの間でも、傷つけあう。そうなることこそを、人生を賭して避けてきたのに。でも、二人は、時間をかけて（ここがポイント）、周囲の力も借りて、それを乗り越えていく――

二人の物語はまるで小説のようだ。上質な小説を要約することほど野暮なことはない。私がこぞでしたのはそういうことに過ぎない。ぜひ読んでみてほしい。泣けるから。

ただ、本書は単なる小説ではないこともたしかだ（もちろん単なる自己啓発書でもない）。タツヤさんやミキさん個人の物語の描写で終わる

のではなく、二人の抱えるような苦しみを生む社会にまで視野を広げていることこそ、本書の白眉である。私たちは、「自己責任論」の世界に生きている。それは私たちがしがらみから解放しもしたが、セーフティネットも失わせた。本書は、それ自体を問うのではなく、そうした社会を前提としたうえで、私たちはどう生きるかをモヤモヤと考え続けることを促してくれる。

とはいえ、東畑は最後に処方箋らしきものを提示してもいる。それは「も」の思想だ。これだけ聞いても意味がわからないだろう。でも、これは本書をはじめから読んで、そのうえでたどり着くからこそ意味のあるものなのだ。だから、ネタバレはしない。ぜひとも手に取って読んでほしい。

# 臨床心理士資格審査の受験資格を 取得することができる大学院

(2023年2月20日時点)

## ◆北海道

北海道大学大学院教育学院  
札幌学院大学大学院臨床心理学研究科  
札幌国際大学大学院心理学研究科  
北翔大学大学院人間福祉学研究科  
北海道教育大学大学院教育学研究科 \*

## ◆東北

岩手大学大学院総合科学研究科  
岩手県立大学大学院社会福祉学研究科 \*  
東北大学大学院教育学研究科  
尚絅学院大学大学院総合人間科学研究科  
東北福祉大学大学院総合福祉学研究科  
秋田大学大学院教育学研究科  
山形大学大学院地域教育文化研究科  
福島大学大学院人間発達文化研究科  
医療創生大学大学院人文学研究科  
福島学院大学大学院心理学研究科

## ◆関東

筑波大学大学院人間総合科学学術院人間総合科学研究群博士前期課程  
常盤大学大学院人間科学研究科  
作新学院大学大学院心理学研究科  
東京福祉大学大学院心理学研究科  
跡見学園女子大学大学院人文学研究科  
埼玉学園大学大学院心理学研究科  
埼玉工業大学大学院人間社会研究科  
駿河台大学大学院心理学研究科  
東京国際大学大学院臨床心理学研究科  
文京学院大学大学院人間科学研究科  
文教大学大学院人間科学研究科  
立教大学大学院現代心理学研究科  
早稲田大学大学院人間科学研究科  
川村学園女子大学大学院人文学研究科  
淑徳大学大学院総合福祉研究科  
聖徳大学大学院臨床心理学研究科  
放送大学大学院文化科学研究科 \*  
帝京平成大学大学院臨床心理学研究科 \*\*  
お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科  
東京大学大学院教育学研究科  
青山学院大学大学院教育人間科学研究科  
桜美林大学大学院心理学研究科  
大妻女子大学大学院人間文化研究科  
学習院大学大学院人文学研究科  
国際医療福祉大学大学院医療福祉学研究科  
駒沢女子大学大学院人文学研究科  
駒澤大学大学院人文学研究科  
上智大学大学院総合人間科学研究科  
昭和女子大学大学院生活機構研究科  
白百合女子大学大学院文学研究科  
聖心女子大学大学院文学研究科  
創価大学大学院文学研究科  
大正大学大学院人間科学研究科  
帝京大学大学院文学研究科  
東京家政大学大学院人間生活学総合研究科  
東京女子大学大学院人間科学研究科  
東京成徳大学大学院心理学研究科  
東洋英和女学院大学大学院人間科学研究科  
日本大学大学院文学研究科  
法政大学大学院人間社会研究科  
武蔵野大学大学院人間社会研究科  
明治学院大学大学院心理学研究科  
明治大学大学院文学研究科

明星大学大学院人文学研究科  
目白大学大学院心理学研究科  
立正大学大学院心理学研究科  
ルーテル学院大学大学院総合人間科学研究科  
東京学芸大学大学院教育学研究科 \*  
東京都立大学大学院人文学研究科 \*  
中央大学大学院文学研究科 \*  
神奈川大学大学院人間科学研究科  
北里大学大学院医療系研究科  
専修大学大学院文学研究科  
東海大学大学院文学研究科  
日本女子大学大学院人間社会研究科

## ◆中部

上越教育大学大学院学校教育研究科  
新潟青陵大学大学院臨床心理学研究科  
新潟大学大学院現代社会文化研究科 \*  
金沢工業大学大学院心理学研究科  
仁愛大学大学院人間科学研究科  
山梨英和大学大学院人間文化研究科  
信州大学大学院教育学研究科  
岐阜大学大学院教育学研究科  
東海学院大学大学院人間関係学研究科  
静岡大学大学院人文社会科学研究科  
常葉大学大学院健康科学研究科  
愛知教育大学大学院教育学研究科  
名古屋大学大学院教育発達科学研究科  
名古屋市立大学大学院人間文化研究科  
愛知学院大学大学院心身科学研究科  
愛知淑徳大学大学院心理医療科学研究科  
金城学院大学大学院人間生活学研究科  
福山女学院大学大学院人間関係学研究科  
中京大学大学院心理学研究科  
同朋大学大学院人間福祉研究科  
日本福祉大学大学院社会福祉学研究科  
人間環境大学大学院人間環境学研究科  
鈴鹿医療科学大学大学院医療科学研究科

## ◆近畿

京都大学大学院教育学研究科  
京都光華女子大学大学院心理学研究科  
京都先端科学大学大学院人間文化研究科  
京都橘大学大学院健康科学研究科  
京都ノートルダム女子大学大学院心理学研究科  
京都文教大学大学院臨床心理学研究科  
同志社大学大学院心理学研究科  
花園大学大学院社会福祉学研究科  
佛教大学大学院健康科学研究科  
龍谷大学大学院文学研究科  
帝塚山学院大学大学院人間科学研究科 \*\*  
大阪大学大学院人間科学研究科  
大阪市立大学大学院生活科学研究科  
大阪公立大学大学院人間社会システム科学研究科  
追手門学院大学大学院心理学研究科  
大阪経済大学大学院人間科学研究科  
大阪樟蔭女子大学大学院人間科学研究科  
関西福祉科学大学大学院社会福祉学研究科  
近畿大学大学院総合文化研究科  
梅花女子大学大学院現代人間学研究科  
立命館大学大学院人間科学研究科  
神戸大学大学院人間発達環境学研究科  
兵庫教育大学大学院学校教育研究科  
関西国際大学大学院人間行動学研究科  
甲子園大学大学院心理学研究科  
甲南女子大学大学院人文学総合研究科  
神戸松蔭女子学院大学大学院文学研究科  
神戸女学院大学大学院人間科学研究科  
神戸親和女子大学大学院文学研究科

武庫川女子大学大学院文学研究科  
奈良女子大学大学院人間文化総合科学研究科  
天理大学大学院臨床人間科学研究科  
奈良大学大学院社会学研究科

## ◆中国

鳥取大学大学院医学系研究科  
島根大学大学院教育学研究科  
岡山大学大学院社会文化科学研究科  
川崎医療福祉大学大学院医療福祉学研究科  
就実大学大学院教育学研究科  
ノートルダム清心女子大学大学院人間生活学研究科  
広島国際大学大学院心理科学研究科 \*\*  
広島大学大学院人間社会科学研究科  
比治山大学大学院現代文化研究科  
広島修道大学大学院人文学研究科  
安田女子大学大学院文学研究科  
山口大学大学院教育学研究科  
宇部フロンティア大学大学院人間科学研究科  
東亜大学大学院総合学術研究科

## ◆四国

徳島大学大学院創成科学研究科  
鳴門教育大学大学院学校教育研究科  
徳島文理大学大学院人間生活学研究科  
香川大学大学院医学系研究科  
愛媛大学大学院教育学研究科

## ◆九州

九州大学大学院人間環境学府 \*\*  
九州大学大学院人間環境学府  
福岡県立大学大学院人間社会学研究科  
九州産業大学大学院国際文化研究科  
久留米大学大学院心理学研究科  
西南学院大学大学院人間科学研究科  
筑紫女学院大学大学院人間科学研究科  
福岡女学院大学大学院人文学研究科  
福岡大学大学院人文学研究科  
西九州大学大学院生活支援科学研究科  
大分大学大学院福祉健康科学研究科  
別府大学大学院文学研究科  
鹿児島大学大学院臨床心理学研究科 \*\*  
鹿児島純心女子大学大学院人間科学研究科  
志学館大学大学院心理臨床学研究科

## ◆沖縄

沖縄国際大学大学院地域文化研究科  
琉球大学大学院人文社会科学研究科 \*

- 臨床心理士になるには、財団法人日本臨床心理士資格認定協会が指定する上記大学院（以下、指定大学院）を修了し、「臨床心理士資格審査」の受験資格を取得しなければなりません。
- 臨床心理士養成大学院は「第1種指定校」「第2種指定校」「専門職大学院」の3種があります。上記一覧で＊つきは第2種指定校、＊＊つきは専門職大学院、無印は第1種指定校です。
- 第1種指定校の場合、大学院修了後に直近の試験を受験することができます。第2種指定校の場合、受験資格を得るためには実務経験1年が必要です。専門職大学院は第1種と同じ扱いですが、試験科目のうち小論文が免除されます。

# 公認心理師養成機関の情報

(2023年2月18日時点)

## ◆大学・大学院 (50音順) ◆

愛知学院大学心理学部、同大学院心身科学研究所  
 愛知教育大学教育学部、同大学院教育学研究所  
 愛知淑徳大学心理学部、心理医療科学研究所  
 愛知みずほ大学人間学部  
 青山学院大学教育人間科学部、同大学院教育人間科学研究科  
 秋田大学教育文化学部、同大学院教育学研究所  
 跡見学園女子大学心理学部、同大学院人文学研究科  
 茨城大学人文社会科学部、同大学院人文社会科学研究所  
 茨城キリスト教大学生活科学部  
 医療創生大学心理学部、同大学院人文学研究科  
 岩手県立大学社会福祉学部、同大学院社会福祉学研究所  
 学部フロンティア心理学部、同大学院人間科学研究科  
 江戸川大学社会学部  
 愛媛大学大学院教育学研究科  
 追手門学院大学心理学部、同大学院心理学研究科  
 桜美林大学健康福祉学部 / リベラルアーツ学部、同大学院国際学術研究科  
 大分大学福祉健康科学部、同大学院福祉健康科学研究科  
 大阪大学人間科学部、同大学院人間科学研究科  
 大阪教育大学教育学部、同大学院教育学研究科  
 大阪経済大学人間科学部、同大学院人間科学研究科  
 大阪樟蔭女子大学  
 大阪市立大学  
 大阪人間科学大学心理学部、同大学院人間科学研究科  
 大阪府立大学現代システム科学域、同大学院人間社会システム科学研究科  
 大妻女子大学人間関係学部、同大学院人間文化研究科  
 沖繩国際大学総合文化学部、同大学院地域文化研究科  
 お茶の水女子大学生活科学部、同大学院人間文化創成科学研究科  
 香川大学医学部、同大学院医学研究科  
 鹿児島純心女子大学人間教育学部、同大学院人間科学研究科  
 神奈川大学人間科学部、同大学院人間科学研究科  
 金沢大学人間社会学域  
 金沢工業大学情報フロンティア学部、同大学院心理学研究科  
 鎌倉女子大学児童学部、同大学院児童学研究科  
 川村学園女子大学  
 関西大学社会学部、同大学院心理学研究科  
 関西学院大学文学部、同大学院文学研究科  
 関西国際大学心理学部、同大学院人間行動学研究科  
 関西福祉科学大学心理学部 / 健康福祉学部、同大学院社会福祉学研究所  
 北里大学医療衛生学部、同大学院医療系研究科  
 吉備国際大学心理学部、同大学院心理学研究科  
 九州産業大学人間科学部、同大学院国際文化研究科  
 九州保健福祉大学臨床心理学部  
 九州ルーテル学院大学人文学部  
 京都大学  
 京都光華女子大学健康科学部、同大学院心理学研究科  
 京都女子大学発達教育学部、同大学院発達教育学研究科  
 京都先端科学大学人文学部、同大学院人間文化研究科  
 京都橘大学健康科学部、同大学院健康科学研究科  
 京都ノートルダム女子大学現代人間学部、同大学院心理学研究科  
 京都文教大学臨床心理学部、同大学院心理学部臨床心理学研究科  
 杏林大学保健学部  
 近畿大学総合社会学部、同大学院総合文化研究科  
 金城学院大学人間科学部、同大学院人間生活学研究科  
 久留米大学文学部、同大学院心理学研究科  
 健康科学大学健康科学部  
 皇學館大学文学部  
 甲子園大学心理学部、同大学院心理学研究科

甲南大学(全学部で対応)  
 甲南女子大学人間科学部、同大学院人文科学総合研究科  
 神戸大学国際人間科学部、同大学院人間発達環境学研究科  
 神戸医療未来大学人間社会学部  
 神戸学院大学心理学部、同大学院心理学研究科  
 神戸松蔭女子学院大学人間科学部、同大学院文学研究科  
 神戸学院大学人間科学部、同大学院人間科学研究科  
 ※神戸親和女子大学文学部、同大学院文学研究科  
 駒沢女子大学人間総合学部、同大学院人文学研究科  
 埼玉学園大学人間学部、同大学院心理学研究科  
 埼玉工業大学人間社会学部、同大学院人間科学研究科  
 相模女子大学人間社会学部  
 札幌学院大学心理学部、同大学院臨床心理学研究科  
 志学館大学人間関係学部、同大学院心理臨床学研究科  
 四国大学生活科学部  
 静岡大学人文社会科学部、同大学院人文社会科学研究所  
 静岡福祉大学社会福祉学部  
 島根大学人間科学部、同大学院人間社会学研究科  
 就実大学教育学部、同大学院教育学研究科  
 十文字学園女子大学教育人文学部  
 淑徳大学総合福祉学部、同大学院総合福祉研究科  
 昭和女子大学人間社会学部、同大学院生活機構研究科  
 白梅学園女子大学子ども学部  
 白百合女子大学人間総合学部、同大学院文学研究科  
 仁愛大学人間学部、同大学院人間研究科  
 福山学園大学人間関係学部、同大学院人間関係学研究所  
 鈴鹿医療科学大学保健衛生学部、同大学院医療科学研究科  
 駿河台大学心理学部、同大学院心理学研究科  
 聖学院大学  
 聖カトリナ大学人間健康福祉学部  
 聖心女子大学現代教養学部、同大学院文学研究科  
 聖泉大学人間学部  
 清泉学院大学人間学部  
 聖徳大学心理・福祉学部、同大学院臨床心理学研究科  
 西南学院大学人間科学部、同大学院人間科学研究科  
 専修大学人間科学部、同大学院文学研究科  
 仙台白百合女子大学人間学部  
 創価大学教育学部、同大学院教育学研究科  
 大正大学心理社会学部、同大学院人間研究科  
 筑紫学園大学人間科学部、同大学院人間科学研究科  
 中京大学心理学部、同大学院心理学研究科  
 中部大学人文学部  
 筑波大学人間学部、同大学院人間総合科学学術院人間総合科学研究群  
 帝京大学文学部、同大学院文学研究科  
 帝京平成大学健康メディカル学部、同大学院臨床心理学研究科  
 帝塚山大学心理学部、同大学院心理科学研究科  
 帝塚山学院大学人間科学部、同大学院人間科学研究科  
 田園調布学園大学人間科学部、同大学院人間研究科  
 天理大学人間学部、同大学院臨床人間研究科  
 東亜大学人間科学部、同大学院総合学術研究科  
 東海大学文化社会学部、同大学院文学研究科  
 東海学院大学  
 東京家政大学人文学部、同大学院人間生活総合研究科  
 東京国際大学大学院臨床心理学研究科  
 東京女子大学現代教養学部、同大学院人間科学研究科  
 東京成徳大学応用心理学部、同大学院心理学研究科  
 東京福祉大学心理学部、同大学院心理学研究科  
 東京福祉専門学校ソーシャルワーク学部  
 東京未来大学子ども心理学部 / モチベーション行動科学部  
 同志社大学心理学部、同大学院心理学研究科  
 同朋大学社会福祉学部、同大学院人間研究科  
 東北学院大学教養学部、同大学院人間情報学研究科  
 東北大学教育学部 / 文学部、同大学院教育学研究科  
 東北福祉大学総合福祉学部、同大学院総合福祉学研究所  
 東洋英和女学院大学人間科学部、同大学院人間科学研究科  
 東洋学園大学人間科学部  
 徳島文理大学人間生活学部、同大学院人間生活学研究科

富山大学人文学部、同大学院人文社会芸術総合研究科  
 長崎純心大学人文学部、同大学院人間文化研究科  
 長野大学社会福祉学部  
 名古屋大学教育学部、同大学院教育発達科学研究科  
 名古屋市立大学人文社会学部、同大学院人間文化研究科  
 奈良大学社会学部、同大学院社会学研究科  
 奈良女子大学文学部 / 生活環境学部、同大学院人間文化総合科学研究科  
 鳴門教育大学学校教育研究科  
 新潟青陵大学福祉心理学部、同大学院臨床心理学研究科  
 新潟リハビリテーション大学医療学部、同大学院リハビリテーション研究科  
 西九州大学子ども学部、同大学院生活支援科学研究科  
 日本大学文学部、同大学院文学研究科  
 日本女子大学人間社会学部、同大学院人間社会研究科  
 日本福祉大学教育・心理学部、同大学院社会福祉学研究所  
 人間環境大学人間環境学部、同大学院人間環境学研究所  
 梅花女子大学心理こども学部、同大学院現代人間研究科  
 白鷗大学教育学部  
 花園大学社会福祉学部、同大学院社会福祉学研究所  
 比治山大学現代文化学部、同大学院現代文化研究科  
 兵庫教育大学大学院学校教育研究科  
 弘前大学医学部  
 広島大学教育学部、同大学院人間社会科学研究科  
 広島国際大学健康科学部、同大学院心理科学研究科  
 広島修道大学健康科学部、同大学院人文学研究科  
 広島文教大学人間科学部、同大学院人間科学研究科  
 福岡大学人文学部、同大学院人文学研究科  
 福岡県立大学人間社会学部、同大学院人間社会学研究科  
 福島人間発達文化学類、同大学院人間発達文化研究科  
 福島学院大学福祉学部、同大学院心理学研究科  
 文京学院大学人間科学部、同大学院人間科学研究科  
 文京学院大学人間学部、同大学院人間研究科  
 別府大学文学部、同大学院文学研究科  
 放送大学教養学部  
 北翔大学教育文化学部、同大学院人間福祉学研究所  
 北星学園大学社会福祉学部、同大学院社会福祉学研究所  
 北海道大学教育学部、同大学院教育学研究科  
 宮城学院女子大学学芸学部  
 武庫川女子大学文学部、同大学院文学研究科  
 武蔵野大学人間科学部、同大学院人間社会研究科  
 明治大学文学部、同大学院文学研究科  
 明治学院大学心理学部、同大学院心理学研究科  
 明星大学心理学部、同大学院心理学研究科  
 目白大学心理学部、同大学院心理学研究科  
 山田女子大学心理学部、同大学院文学研究科  
 山形大学地域教育文化学部、同大学院地域教育文化研究科  
 山梨英和大学人間文化学部、同大学院人間文化研究科  
 立教大学現代心理学部、同大学院現代心理学研究科  
 立正大学心理学部、同大学院心理学研究科  
 立命館大学総合心理学部、同大学院人間科学研究科  
 琉球大学人文社会学部、同大学院人文社会科学研究所 / 地域共創研究科  
 龍谷大学文学部、同大学院文学研究科  
 ルーテル学院大学総合人間学部、同大学院総合人間研究科  
 早稲田大学人間科学部、同大学院人間科学研究科  
 和洋女子大学人文学部

## ◆公認心理師法第7条第2号に規定する認定施設 弘前愛成会病院

●本一覧は、一般社団法人日本公認心理師養成機関連盟に加盟している大学・大学院等(学部等名・研究科等名まで)、及び、認定施設です。ただし、改組等で学科名・研究科名が変更になっている場合もあります。詳細は、連盟のホームページに掲載されています。





本誌は心理臨床学会の広報誌である。本号がみなさまのお手元に届くころには、ついに23号以降のネット公開が実現する(https://ajcp.media/)。直接その過程に関わったわけではないのだが、この数年本誌の編集委員を務めていた私にとってもそれは宿願であったので、たいへん嬉しい。これにより、本誌はより多くの方の目に触れるようになることだろう。

私は以前から、広報をするならとにかくネットを使わなければならないと思っていた。このご時世、ネットはもはや生活のインフラである。その思いは本号にも反映されている。特集1の「推し活」も、特集2の「無敵の人」も、いずれもネットと密接に結びついたものである。

本号で井出が指摘しているように、私たち心理臨床家がネットに安易に飛びつくことには危険もある。だが今回は、それを承知の上でネットに近接した特集を組んだ。臨床をしていれば、学問的に定説はなくとも、考える限りの最善策をその場で選択し、対応せねばならないことはいくらでもあるからだ。本号の特集が、読者の皆様、そして心理臨床家の日々の臨床に役立てば幸いである。

巻頭対談は、特集1の「推し活」にちなんで、K・POP評論家の古家正亨さんをお願いした。古家さん目当てに本号を手にとってくれる方も多いことと思う。内容は、芸能文化にとどまらず、異文化をいかにし

て理解するかといったことまでわたっている。古家さんも指摘しているように、私たち世代が受けた教育では、本来は非常に重要であるはずの近現代史は手薄なものになってしまっている。本対談は、そうした事情に若い世代が関心を持つ入口となるのではないかと、この期待を抱くものであった。対談を引き受けてくださった古家さんには感謝したい。

「当事者に役立つ心理教育」では「対象喪失」を扱った。ふつうのことばで言えば、「大事なものを失うこと」である。私たちは、生きていけば、不可避免に何かしらの大事なものを失う。だからこれについては、私たち全員が「当事者」であると言える。そのなかでも、本号ではいくらか細分化した形で「対象喪失」を扱った。「喪の作業」と言われる喪失を悼むプロセスを十全に体験するには、他者が必要である。もし今現在、大切なものを失って苦みの渦中にいる方があれば、直接的にその助けになればこれほど嬉しいことはないし、記事をきっかけに誰かを頼ってみようと思うきっかけとなれば、それもまた嬉しいことである。

本誌が読者のみなさんの精神的健康を促進するものとなるよう、今後も力を尽くしたいと思う。  
(広報委員 山崎孝明)

## 事務局だより

新型コロナウイルス感染症予防の対策で、本学会も会議や学術大会の持ち方など、運営のあり方に大きな変革を余儀なくされ、

4年目を迎えました。

第5期業務執行理事会は、2020年4月に最初の緊急事態宣言によって、あらゆる業務が混乱し、多くの会議が停止したまま、第6期業務執行理事会へバトンを送りました。第6期業務執行理事会は、直前に迫る学術大会をWeb方式へと切り替え、その後もたびたびWeb方式の会議を開きながら、2年間一度も対面会議が出来ぬままに終わりました。そして現在の第7期業務執行理事会が、昨年6月に発足しています。

この間に、学会の運営については、あらゆる面で試行錯誤しながら、業務を進めてきました。事務局は、リモートワークを取り入れ、Web方式の会議にも柔軟に対応できるようにになりました。これによって各委員会の活動が維持され、学会大会、研究会の開催、学会の機関誌の発行なども支障なく行うことができました。

しかしながら、これまで週末の日中が多かった対面方式の会議から、Web方式の会議に替わると、連日夜間帯に集中するこ

とが多くなり、事務局の運営上は負担の大きいところでもあります。このあたりは、担当理事としても、持続可能なバランスを点検しながら進めていく必要があると痛感しています。

Web方式による国際的な学術研修会、新たな論文投稿システムの展開、論文執筆ガイドの改訂、自殺対策専門委員会の設立、対面大会とWeb大会の2本立てによる学術大会の拡充、学会主催研修会の開催、広報誌のホームページでの公開など、コロナ渦中にありながら、各委員会活動はむしろ活発化し、しっかりと成果が生み出されているように思います。

これらの成果は、学会運営上の多くの困難に關して、会員の皆様から常にご理解とご協力を賜ったからこそ実現できたものであり、事務局運営に携わった一人として、心から御礼申し上げます。  
(財務担当理事 青木紀久代)

## 心理臨床の広場 30

Vol.16 No. 1  
2023年4月1日発行

- 広報委員 葛西真記 松下 姫歌  
岩倉野 拓 山崎 孝明  
香野 毅 山 榎
- 編集委員 池 志智保 長谷川 紘  
出野 保 樋口 亜瑞  
熊野 みき 日野 映  
坂元龍 平山 大  
津山紀 彦 史  
永田悠 芽 衣  
中西野 香 子  
長野 香 亮  
橋本 忠 行  
山根 亜 希
- 協力委員

● 編集協力 / 製作 株式会社創元社  
〒541-0047 大阪市中央区淡路町 4-3-6  
TEL 06-6231-9010

● 発行 一般社団法人 日本心理臨床学会  
〒100-0006 東京都千代田区有楽町 2-10-1  
東京交通会館 5階  
TEL 03-6273-4061 FAX 03-5223-2755  
ホームページ URL https://www.ajcp.info/

● 印刷製本 株式会社太洋社

次回予告 (2023年9月発行)